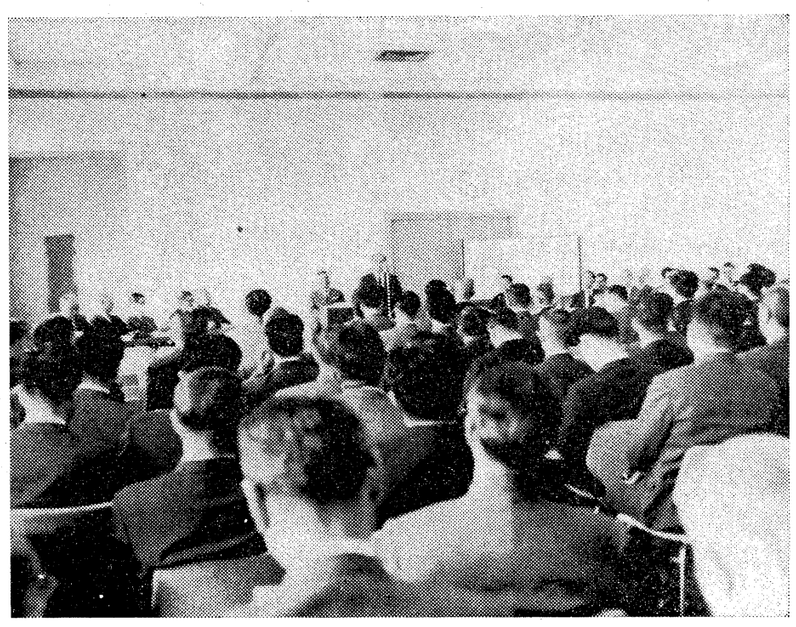
校友会 本年度事業計画決まる

組織活動を強化
事務機能の基盤を整備
定例代議員会

昭和四十四年度事業報告・決算に併せて昭和四十五年度事業計画・予算を審議する本年度第一回定例代議員会は、五月二十三日午後二時から母校関西大学会館において、約二百二十名参集の下に開催。前年度任期満了による役員の改選以下紛争影響下における諸会務の執行について承認を得るとともに、新年度事業計画は、ことに組織活動の強化など本来の事業活動の積極的推進、その基盤となる事務機能の整備を主眼に取り組むことを決めた。このあと一般質疑では先の紛争対処に関連して糾問が続出し、最後までいつになく活発に展開された。


約230名が集まって開かれた本年度第1回定例代議員会

会は倉谷総務副部長の司会で開会され、学歌斉唱、来賓に続き今期選出された新役員の紹介がなされた。

經本会長から「学園紛争は大学当局の努力あるも容易に解決されなかったが、漸く平常化を取り戻し得たことは校友の喜びとするところである。新しい年度における校友会としては我々執行部が一致協力し、また代議員諸氏のご支援ご協力を得て目的達成に努力したい」旨挨拶され、大学の近況については、まず久井理事長から「多数校友から信託を受けながら、昨年見られることを紛争を惹起し、回復の容易ならざる事態を生じたが、その収拾に全力を尽すということでお赦し願いたい」と述べられ、本年度予算の大綱を引続き説明された。

また広瀬学長代行は「就任以来学園の秩序維持と大学の改革案作成という二つを仕事としているが、大学の改革は昨年十一月四日改革準備委発足し、教職員より委員を出し、爾来ほぼ半年、熱心に討議いただき三月末にほぼその成案を得て私の手許に出たので、五月一日学内全部に発表できた。これは第一次答申であり、これを教職員あるいは学生に何らかの形で意見を徴し、できれば速やかにこの案をもとに改革案を作りたい。これからは大学の中も前向きの姿勢で進んでいきたいので、これまで以上のご協力をさこのべていただきたい」旨報告された。

ここで理事者に対し先の総選挙後援等をはじめ四項目にわたる質疑が出たが、運営上後刻に送り当日の議事に入った。

松村、大森正副議長登壇し、まず第一議案昭和四十四年度事業報告書承認の件を上程、坂本総務部長から報告書にもとづき提案、報告要旨は①昨年度校友総会における代議員の改選以後各機関により決定された役員の選出をはじめ、②代議員会・常議員会・全国支部・職域・同期代表者総会ほか諸会合議事内容、③機関紙〝関大〟の発行、④学部卒業生名簿の発行、⑤会員の慶弔、⑥組織活動、⑦学友会・学生クラブ活動の援助などを内容とし紛争影響下における諸会務の報告となっている。

第二議案昭和四十四年度予算補正の件は、第三議案昭和四十四年度収支決算書並に財産目録承認の件と併合上程、畑下財務部長より提案、要旨は①紛争による仮事務所の設置に伴う予備金の支出増、会議費、割戻金の支出増を見たのでこれを会費外収入の増収を以て予算補正する、②収支決算書（普通会計・予納会計・終身会計）貸借対照表について別表の通り、監査結果について異議なく承認。以上三議案一括審議の結果、いずれも異議なく承認。

第五議案昭和四十五年度事業計画書承認の件を上程、坂本総務部長より提案、要旨は①任期満了による役員改選後の初年度であり本来の事業活動を積極的に推進する②その基盤となる事務機能の強化③各組織の相互連繋強化などを主眼として策定されている。

第六議案昭和四十五年度収支予算書並びに財産目録承認の件を上程、畑下財務部長より提案、前号既報の予算書原案通り、以上二議案一括審議の結果、会費増額問題、学生援助について質疑ののち、いずれも原案を異議なく承認。

以上議事終了後、持越しの一般質疑に入り、まず理事者質問であった総選挙後援問題、教学統轄権の所在、役員選考などに関し、久井理事長および經本会長、松村選考委員長から関連事項について応答と所信の表明がなされた。

そのあと、このたびの学園紛争対処に関連して①学友会成立の見通しはどうか。②校友会は是は是非は非の姿勢をもつべきでなかったか。③校友が孤立しないよう共通の意志発表できる機関を作ってはどうか。④校友会は二〇年に着目した姿勢を持って欲しい。⑤緊急時には起こりつつある事態と方策を検討できるよう機会を作ってもらいたい。

など意見が出され学長代行、会長ほか所管担当者より答弁がなされ予定時間を越す活発な質疑が繰り返えされた。

顧問参与 執行部と懇談会

役員改選後初の顧問参与と執行部との懇談会は五月二十二日午後六時から梅田新阪急ホテルにおいて開催した。

先ず經本会長から昨年の役員改選をはじめとした校友会会務の近況について紹介があり、次に広瀬学長代行から大学改革案第一次答申を中心に学内情勢の説明があった。

懇談会に移って「非常事態における校友会のあり方」「改革案第一次答申の取扱い」「校友評議員選出母体としての校友会の責任」「機関紙〝関大〟報道内容」「校友会財務運営」など、校友会のあり方、進み方について意見の交換があった。

当日の出席者は次の通り。

大月、広瀬顧問、織田、栗川、田中、村上、矢野、安富、山崎、吉田各参与、樫本、稲野、大島正副会長、松村、大森正副議長、坂本高橋、金本、畑下各部長

組織の近況等を報告
全国支部・職域・同期代表者総会

昭和四十五年度の全国支部・職域・同期代表者総会は、六月六日午後二時から関西大学会館四階の大集会室で、久井理事長、広瀬学長代行はじめ、来賓、本部役員、七十七団体百三十四名が出席して行なわれた。

会館玄関で出席者全員の記念撮影の後、千厳組織部副部長の司会で開会。学歌斉唱に続いてあいさつにたった樫本校友会長は、「全国支部・職域・同期会の代表者会議としては校友会発会以来の多数のご賛同を得た盛会となり同慶にたえない。例年より早く開くことになったのは、関大にとって縁の深い千里丘陵で万国博が開かれているのでこの機会に万博見学をしていただくためである。先般の代議員会で、事業計画、予算などをご承認いただいたが、校友会の目的達成のため今年も頑張っていきたい。また本日お集まりの代表者の皆さんがそれぞれの支部、職域等においてご協力願うことが校友会の目的達成のための力となるので、支部の現況・校友会のあり方等に関して皆さまから貴重な意見をお聞かせねがいたい」とあいさつ。

来賓あいさつに立った久井理事長は、大学の財政について「授業料を値上げして教育研究の財的基礎をたてるということは現時点でも必要なことだが、来年度の授業料値上げはしないということにふみきった」旨説明。

本部役員、顧問、参与の紹介のあと自己紹介兼ねて部の近況報告に移り、「支部から紹介したスポーツなどの優秀な者を入学させてほしい」「支部の中で年輩者と若い者の間に断層がある」「会費の徴収や総会開催方法に妙案がないか」などの意見が出された。

途中広瀬学長代行のあいさつがあり、学長は「地域・職域等で関西大学」を、第一学舎三号館五階では視聴覚教育紹介映画をそれぞれ上映した。

新役員決まる

教育後援会は五月二十九日午後五時すぎから新阪急ホテルにおいて第一回委員会を開催し、昭和四十五年度事業計画及び予算編成を可決、次のように役員を選出した。

（副会長）河合時夫、小西信一郎、八木義雄、（監事）神谷正夫、柳井武夫、（常任委員）池田利次郎、伊藤清三、井之上博、岩佐文人、植田信男、植田正路、大西重信、大西幸夫、小畠謙三、鎌田総一、谷生太郎、佐藤正治、阪上貞蔵、塩田徳太郎、高田直四郎、津田勤治、中尾喜一、西内昌夫、西川富蔵、西森鶴吉、平田伊三郎、平瀬学長代行のあいさつで閉会した。

午後は各学舎において学部主催の学部別父兄懇談会が行なわれた。また誠之館特別講堂では映画

会長に西島治一郎氏
45年度教育後援会総会開く

教育後援会は五月十七日午前十時から千里山体育館において昭和四十五年度定期総会を開催した。当日は広瀬諸三学長代行、久井忠雄理事長、六学部長、教学部長、学生部長代行、就職部長及び大学事務局長ほか、全国から集まった約五、二〇〇名の父兄が出席した。

会は応援団吹奏楽部伴奏、文化会クリークラブの学歌斉唱で始まり、遊上義一会長のあいさつの後、議事に入り、昭和四十四年度事業報告、昭和四十四年度収支決算報告、及び監査報告があり、会長委員を選出した。会長は西島治一郎氏が就任し、新任あいさつのあと、来賓として久井理事長、広瀬学長代行のあいさつで閉会した。

午後は各学舎において学部主催の学部別父兄懇談会が行なわれた。また誠之館特別講堂では映画

45年度の全国支部・職域・同期代表者総会

会と催

▽神戸市役所関大倶楽部総会　六月十八日午後六時から相楽園で開催。

▽大阪市役所支部総会　六月二十日午後二時関大会館で開催

黎親会では支部の活動方法など和やかに歓談、後会員で万博会場へ向かった。

葬の要

わが校友会は、ここ十年ほどの間に大きく発展した。会員組織も伸び、財政基盤も、ますます安定した。

戦前の支部組織は約四〇であったが、現在、地域支部だけで九八、ほかに、職域支部、同期会、クラブなどが一〇〇余り、併せて二〇〇にのぼる同窓会組織がある。おそらく、全国の他大学に比べ類のない盛況である▼しかし、敗戦後、壊滅状態におちいった校友組織を、ここまで整備することができたのは、なみたいていの苦労ではなかった。校友会本部の人たちはもちろん、支部やそれぞれのグループの幹部が、懸命な精進努力をつづけた結果である▼いかなる団体も、個々の人びとを、集団としてまとめることはむつかしい。さらに、その集団組織の運営は、いっそうむつかしい。ことに同窓会は、利益団体でもなければ、救済施設でもない。いわば、任意の親睦団体である。それだけに、いっそうやりにくい。しかも、無為、無策でも過せる。そうした体質をもつ同窓会組織は、微温的かつ惰性的なやり方と、熱意と工夫による積極的な運営とでは、結果としていちじるしい違いがでてくる。▼毎年春には、いちはやく、新しい卒業生に呼びかけて、会合を開く支部、また支部再建のため、県下在住する校友を、詳細にしらべ、千数百枚の案内状を発送した支部もある。そうした努力と工夫が感ぜられる会合では、さぞ温い血のかよったふん囲気をかもしだすことであろう。母校を共にした先輩、後輩が、手をとり合って歓談する。そこに、安らぎと楽しさ、さらに、複雑な、社会生活や、それぞれの事業人として身を処するために糧益する多くの話題がある▼人それぞれにただ一人だけの力は、小さく弱い。一人でも多くのつながりや、支援者、協力者があるのはよい。あらゆる階層、あらゆる職種を持つ多くの校友と接することは、在学当時の勉学以上に、社会人として必要、かつ、有益なことである。校友の集まるいろんな会合に出席する常連の人たちは、そのことを知っている。

ろんだん

学友会再建と学生

畑下辰典

本学にはこつの学友会があり、一部学生をもって組織したものを一部学友会と称し、二部学生による組織を二部学友会といい、おのおの別個の活動をしている。その組織は、戦後何回かの変遷によって似通っているが、全学生による意思決定機関が全学生大会で、ありこれを執行する機関が中央執行委員会（中執）となっている。

一部学友会は通常六月に中執の改選により新執行部が誕生し、二部学友会は新入生を迎えたあとの五月、選挙によって執行部が成立することになり、二部は昨年も本年も選挙によって新執行部が生まれ、その活動は自治会活動、各部活動ともに本部活動が円滑に進められているのでこの小論では触れない。

これに反し一部では、大学紛争の遠因となった各学部自治会の予算配分不均衡と称する問題から、学友会中執と自治会執行部との確執が生じ、昭和四十三年十一月に誕生した、樋口委員長以下の執行部を認めないとする自治会の動きが表面化し、昭和四十四年春の中教審答申に端を発する大学立法反対を各学部自治会が取り上げ、他方これに学内要求をからませた全共闘による大学紛争が組織された。

六月二十日悪夢の如き関大会館封鎖占拠と破壊を始めとして、社会学部および法文・経済研究棟の封鎖占拠という紛争が九月に及んだ。この間全共闘は武装して執拗に体育館、凱風館の襲撃、中執の樋口君以下の委員を狙い、暴行を加えた事件が続発した。

思想の違いを暴力で抑圧しようとする行為は、歴史の教えるとおり暴力によって倒れることになる。学生は、理論によって説得し、共鳴者を増やす地道な方法こそ、真の解決の道を選ぶべきではなかろうか。

ともあれこれら一連の動きは、中執の主力が体育会関係だとする自治会執行部ないしは全共闘の反発であり、前述の予算配分から生じた対立が、大学紛争に対して学生の意志統一を遅らせ混乱せしめた因となっている。

紛争最中の各学部学生大会で四学部の自治会が、学友会離脱を全共闘戦術により決議している。

これは学生が、みずから学生のための活動を支える資金として納付している学友会費の帰属についての、勢力争いとみられる。

いずれにしても全学生の資金が一部分の者によって、ほしいままにされることは好ましくない。

当時の中執は、この紛争によって予算配分会議が流れたため、四十四年度の学友会費は凍結供託をして、その配分を留保している。

十月に入り学内は正常化の機運に向かいつつあるとはいえ、中執と自治会の対立は根強く、遂に学友会中執の改選ができないまま、今春、樋口委員長は卒業している。

このため四十五年度の学友会費も凍結供託となり、今や二ヵ年の活動財源を失っているのが一部学友会の現況である。

このことに一番影響されているのは予算支出の多い関西大学新聞を発行してきた新聞会を始めとして、体育、文化、学研の各部である。しかしこの資金難にもかかわらず、学友会の各部活動としての行事は、大学の事業報告書に示されたところによれば活発に行われており、教育後援会、校友会および先輩の援助が、部員の拠金とともに頂って力を発揮していると思われる。

このような変則的事態を脱却するための口火をきるものは誰か、大学改革が進められ、学生代表の参加が必要な今、単に各部活動だけでなく、学生の基本的目的である。学友会の再建は、まさに学生にとって自治のルネサンスである。学友会活動が単に学友会を政治的に利用することなく、学生のための学友会として後輩に継承するものにして貰いたい。既存の権利だけに固執する姿勢ではなく、市の広い学生層の進出を期待したい。

大学時代の最大の収穫は、人生にとって極めて影響力の強い良き学友を得ることである。学友会はそのためにも機能を発揮しなければならない。

過ぎた学生時代に学友会に情熱を捧げた一人として、学友会の再建を願わずにはおれない気持で執筆した。校友諸先輩からも適切なアドバイスを切に願いし、文中適切を欠いた表言があれば、ご容恕願いたい。

（校友会財務部長）

千里山体育館で開かれた45年度教育後援会総会

昭和44年度　収支決算書

1．普通会計

支出 項目	補正後予算額	決算額	収入 項目	補正後予算額	決算額
人件費	9,219,000	8,820,471	前期繰越金	1,056,953	1,056,953
物件費	2,040,000	1,851,150	会費収入	11,185,000	10,507,500
会議費	729,000	687,919	会費外収入	9,342,000	9,340,773
事業費	7,378,000	6,718,954			
渉外費	100,000	96,358			
割戻金	193,000	192,200			
一般積立金繰入	500,000	500,000			
予備金	1,424,953	1,383,299			
次期繰越金		654,875			
合計	21,583,953	20,905,226	合計	21,583,953	20,905,226

2．予納会計

支出 項	予算額	決算額	収入 項	予算額	決算額
終身会計繰出	8,560,000	8,965,000	前期繰越金	41,590,000	42,638,500
次期繰越金	44,880,000	46,386,000	予納会費A	11,850,000	12,352,500
			受入金B		360,000
合計	53,440,000	55,351,000	合計	53,440,000	55,351,000

3．終身会計

支出 項	予算額	決算額	収入 項	予算額	決算額
普通会計繰出	9,535,000	9,341,500	前期繰越金	8,968,316	8,919,316
次期繰越金	8,993,316	9,797,816	終身会費収入	1,000,000	1,255,000
			予納会計繰入	8,560,000	8,965,000
合計	18,528,316	19,139,316	合計	18,528,316	19,139,316

貸借対照表

資産 科目	金額	負債 科目	金額
現金	27,994	予納積立金	46,386,000
銀行預金	1,981,685	終身積立金	9,797,816
郵便振替	94,744	一般積立金	3,165,297
貸付信託	14,220,000	退職給与積立金	251,851
金銭信託	35,289,316	仮受金	1,035,500
未収金	533,700	預り金	49,100
割引公社債	9,193,000	次期繰越金	654,875
合計	61,340,439	合計	61,340,439

発行所
関西大学校友会
吹田市山手町3丁目3番35
発行人　神屋敷民蔵
電話大阪（388）1121代表
振替口座大阪55594番

コンタクトレンズ
メガネ
大学堂
大阪・心斎橋店
☎271－7891
阪神百貨店5階
第一生命ビル専門大店

1．信用調査（法人・個人）
2．人事調査（結婚・雇傭・その他）
3．経営診断
日本企業調査株式会社
大阪市西区京町堀2－61（藤原ビル）
電話（06）441－8471～8（代）

英国サビルロウ・ロールマン社・英国T・B&サンス社日本総代理店
最高のおくりもの
カタノ紳士服地
片野洋服店
大阪市東区北浜三丁目（電停前）
電話大阪（231）0355番・（231）2555番
大阪駅前店　第一生命ビル専門大店
電話　大阪（341）0七九二
カタノ良イ　カタノ凝ラヌ　カタノ崩レヌ　カタノ洋服店

サイフ・カバンの
GET
カタログ進呈
50ケ以上承ります
ハンドバッグ・サイフ・カバン専門綜合卸
廣島屋本店
本社　大阪市東区博労町1－26
〒541　TEL　大阪(06)261－2431（代）
天満店　大阪市東区京橋1－7　OMM4階
〒540　TEL　大阪(06)943－2421～2
専務取締役　蔵田廣造

配管材料　総合問屋
指定問屋　東洋バルヴ株式会社
指定代理店　住友金属工業株式会社
株式会社北沢バルブ
特約販売店　日立金属株式会社
代理店　株式会社北斗バルブ製作所
株式会社イズミ製作所
株式会社吉田バルブ製作所
中鶴バルブ工業株式会社
株式会社田渕製作所
佐野鉄工株式会社
東亜樹脂工業株式会社
株式会社寺岡製作所
江守バルブ株式会社
本社・大阪市西区立売堀北通4丁目51番地
電話大阪(06)(532)6321代表　(532)6328(夜間)
出張所・新居浜・鹿島・大分・高岡・福岡・鹿児島

信用と技術を誇る太平住宅
1日＝100戸をめざす
太平住宅の組織・技術・知識・資金をそっくりお使いください
家を建てるには煩雑な問題が多すぎます。……
建築資金の調達、設計、職方・建材の選定、税金や法律、ちょっとした手違いが、大きな損失を招きます。
そんな時、太平住宅がお役に立ちます。
太平住宅7万人の組織、技術、知識をそっくりお使いいただく《ワンパック・システム》。
建築の総合メーカー太平住宅だからこそできるシステムです。
■木造から鉄筋建築まで……住宅はもちろん店舗、医院、アパート、事務所など、すべてお引き受けいたします。
■便利な月払い方法も……少ない資金で、早い着工、残りも便利な月払いです。（公庫の併用もできます）
工費（木造）…7,380,000円　延面積…174.85m²　M.S様邸（大阪府泉南郡）
資料請求券　太平住宅　関大
請求券をハガキに貼り住所・氏名・年令・職業を記入の上最寄りの支店・営業所にご連絡下さい。
大阪支店・大阪市西区靱本町（地下鉄本町駅下車東北角）TEL(443)8821大代表
京都支店・京都市下京区四条通り室町（池ノ坊学園東隣り）TEL(211)6351　代表
神戸支店・神戸市葺合区御幸通り（国鉄三ノ宮駅浜側）TEL(23)4661　代表
和歌山支店・和歌山市本町（バス・市電本町4丁目前）TEL(23)3286　代表
本社・東京新宿駅南口甲州街道沿　TEL(343)1111大代表
太平住宅
建設大臣登録(ワ)第2339号　建設大臣免許(1)第472号
全国の主要都市に支店・営業所あり

電子技術で未来をひらく松下通信工業
消えた――押し売りの声！
玄関電話があれば安心……
お部屋の中から、あらかじめ声で確かめられるので、文字通り「門前払い」！　押し売りは電子チャイミーをさげて通りすぎます。
＜特長＞●美しいひびきの電子チャイム音（音量調整は自由自在）●屋外用子機は耐雨構造。
ナショナル玄関電話《電子チャイミー》
●VL-137（電灯線式）1セット現金正価9,850円●VL-157（乾電池式）1セット現金正価8,900円
●お問い合わせは…ナショナルインターホーン販売(株)　大阪市北区神明町8
電話(06)364-9141　神戸営業所　神戸市葺合区御幸通2丁目6　電話(078)23-6142
松下通信

北から・南から　各地支部だより

盛大に春季総会

韓国本部　幹事に金演明氏

校友会韓国本部は四月二十六日午後一時から、ソウル北岳のふもと漢峰洞渓谷で春季総会を開催した。遠方では順天より法院支院長部長判事許振明氏、大邱より慶北石油副社長孫重鎬氏らが馳けつけ、極めて盛大に行なわれた。

まず劉会長から、今年こそは待望の母校訪問を兼ねた万博参観を実現すべく校友会本部と緊密な連絡をとりましたが、諸般の事情のため、万やむなく中止するに余儀なくなった旨のあいさつのあと、李監勲幹事長の文化会採検部学生六名と商学部亀井利明教授の来韓報告。

ついで、かねて一身上の都合により提出中であった金誉尚幹事職辞任を受理し、後任に金演明氏を残存期間中の幹事として万場一致で決定、つづいて徐楚宗氏の訪日視察談等に花を咲かした後各自隠し芸の披露が始まると、時所も忘れ、若かりし往時を偲ぶ意気軒昂さで学歌斉唱して散会は五時であった。

近江石山で懇親会

弁理士関大会春の集い

弁理士は全国で約二千名であるが、そのうち関大出身は現在七三名であり、昨年一月弁理士関大会を結成した。総会は年一回、懇親会は春秋の候に開いて親睦を図っている。

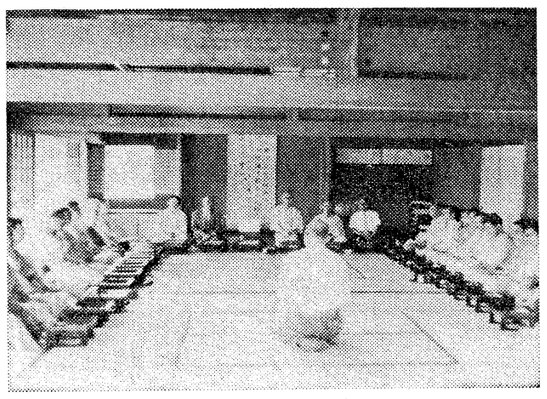
ことしは、弁理士会役員改選にあたって藤原忠義君が副会長に、吉見久鶴、森本義弘両君が常議員に当選され、また春の叙勲で佐々木芳郎君が勲五等瑞宝章を受けられたお祝いを兼ねて懇親会を、五月三十一日午後一時から近江瀬田川畔、石山の「柳屋」で開いた。東京から北野重治、及川昭二、高知から田中高秋の諸君が参加されて二十五名。

庭前で記念撮影をして、席につき、鎌田会長から当選の諸氏に祝辞を呈し、叙勲の佐々木氏に記念品を贈って栄誉を祝った。またさきに逝去された鳥田博史氏の霊があらかならんことを祈念して黙祷を捧げた。

ついで、藤原、吉見、森本、佐々木の諸氏から謝辞、校友会副会長大島武夫氏から母校と校友会についての報告があった。

及川氏の音頭で乾杯、びわ湖、瀬田川でとれた"川魚料理"に舌鼓をうち、サービス女性による大津絵その他に興じ、宴は三時すぎまでつづいて歓を尽した。

現地で解散後石山寺を訪れるものも多かったとか。



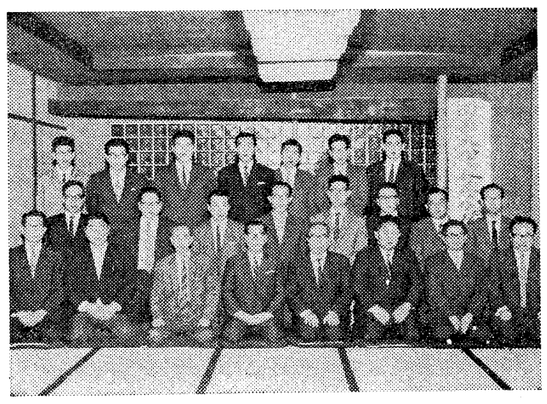
近江石山で開いた弁理士関大会春の懇親会

母校の正常化の報告に安堵

東京支部総会

東京支部（沢田勇夫支部長）本年度春季総会は五月十五日午後六時から有楽町駅前、交通会館十二階「交通大飯店」で開かれた。母校側から津田教学部長並に綾本校友会長が出席、会員六十四名が参加した。

総会は住岡副支部長の開会の辞、沢田支部長の挨拶の後、教学部長よりストライキ後の母校の現状と今後の改革について、また校友会長から校友会に関して報告と説明があり、出席者一同、母校が正常化に向かって進んでいることに安堵した。



備後支部総会に参加した人々

寮費不払のビラを見て

わたしは仕事の都合もあって、たびたび母校を訪ねることがある。数日前のことであった。学生から一枚はビラを手渡された。毎度のことでいささか食傷気味で、気にしなかったが、フト見ると学生寮に関するものであるらしい。寮問題といえば多少興味がないでもないので、目を通してみた。

そこにはずいぶん勝手な主張がある。学生は図書館にはいる時は入場料がいらないのに、我等寮生だけは寮費をとられる。そんな不当なことがあってたまるか、といったような論理ですすめられている。結局寮費不払運動を支援しるというのである。

あとで聞けば、どこの大学でも同じであるというだけに、余計に情ない。どこからか指令が来る。何の批判もしないで未消化のまま流す、それが学生運動の実態だとすれば、何と知性の低いことだろう。

「ふたたび寮問題に戻って、不得意な計算を試みることにしたい。寮の建築費を大まかに見て二億円とする。年五分の利子としても年間一千万円である。したがって二百人の寮生一人当たり利子負担だけでも年に五万円となる。これは土地代も、建築の償却費も考えない建築費の利子だけである。その建築費の大部分は私学振興会からの借入金でまかなっているらしいが、結局は学生全体の負担になるのであろう。

聞くところによると寮費は月一千二百円とかのことである。それは建築費の利子にも足りない額である。この寮を利用できるのは二百人の学生に限られている。二万人からの多くの学生は、自宅通学できる以外は負担の為に下宿やアパートを利用せざるを得ない。理想としては全寮制度を考えられるが、はたしていまの私大で、授業料をとれただけ増額したらそんなことができるであろうか。

ともあれ、寮は学生の厚生施設として建てたものだから、図書館を利用するのと同じように無料にすべきだと主張しているのである。

現在の二百名の寮学生に寮費をとらないことが、二万の全学生にとって公平といえるかどうか。大学は学問をするところだと思っているが、こうした連中を相手にする大学の先生がたも、さぞ気骨のおれることだろうと同情する。

（T・K）

ひとことひとこと

大阪湾黒船騒動

おおさかこぼれはなし　浪花落穂集

吉田三七雄

—その4—

嘉永六年（一八五三年）ペルー提督のひきいるアメリカ艦隊が、浦賀の沖に姿を現わしたという話は知っていても、大阪湾へはロシアとフランスの軍艦がやってきて、それこそ"てんやわんや"の黒船騒動が起こったということを、案外知らないひとが多いようだ。

安政元年九月十八日の朝。だから浦賀へアメリカ艦隊がやってきた翌年である。大阪湾天保山沖に一隻の黒船が錨を下ろした。ロシア軍艦ジアナ号である。

記録によるとジアナ号は、船体を黒・白・赤の三色に塗りわけ、長さ一七五フィート、幅八フィート、水ぎわから甲板まで一五フィート、大砲六〇門を積んだ三本マストの軍艦で、三本マストの中央の一本は六〇フィート、このマストに日本の平仮名で「おろしや」と書いた旗を掲げていたという。

その前日、紀州沖合でこの黒船を発見した紀州藩では、直ちに大阪城代土屋寅直（とらなお）にこのことを知らせ、おどろいた城代は船手奉行に命じて大小の廻船、荷船を集めて安治川・木津川の両川口を封鎖させたが時すでにおそく、ジアナ号から二隻のボートが下ろされ、士官と水兵二十数名がこれに乗って安治川をさかのぼった。

ロシアは日本と米国が和親条約が結ばれたことを知り、同様の条約を結びたいと使節プウチャーチンをジアナ号に乗りこませ、幕府と交渉をするために大阪湾にやってきたのであった。

ボートは町奉行組与力が追い返したが、「黒船襲来、乗員上陸」の恐怖と不安は大変なものだった。

幕府もついに「和親条約について考慮する」という正式回答文書を届けたので、ようやく十月三日になってジアナ号は錨を上げ、天保山から二十一日目に姿を消したのであった。

こうした騒動のうちに慶応三年（一八六七年）十月十四日、徳川慶喜は大政を奉還、十二月九日王政復古が宣言され、長い間にわたる幕府政治に終止符（ピリオド）が発足した。

堺市中の警備取締りに当たっていたのは土佐藩の六番隊と八番隊だったが、市民から訴えを聞いた六番隊の宜蒲殤右吉（みのうらいきち）、八番隊の西村佐平次両隊長は、直ちに隊員を引き連れて現場に急行。互いに言葉が通じなかったことからついに争いとなり、フランス兵が六番隊の隊旗を奪って逃げたので、藩士達は追っかけて隊旗を取り戻し、さらにボートに乗って沖へ逃げようとするフランス兵に向かって一斉射撃を加え、十一名を殺傷した。フランスのロッシュ公使は政府と土佐藩に謝罪せよとせまり、さらに十手人の処刑と十五万ドルの賠償を要求した。

開国和親政策を声明したばかりの政府としては、これを認めなければならなかった。

大変な騒ぎになった。フランス城の接収も終らないその翌年の明治元年二月十五日、こんどはフランスの軍艦デュプレー号が堺に入港。約二十名の水兵がボートで上陸し、士足のままで神社や民家に上がりこみ、女性をからかったというので、これまたえらい事件になった。

二月二十三日、堺市材木町東四丁の妙国寺本堂前で、ロッシュ公使、デュプレー号艦長立会いのもと、隊員二十名の切腹が開始された。

ところが、箕浦、西村隊長らがつぎつぎに腹を切ってゆくあまりにもすごい情景を見たフランス人たちは気絶するばかりに恐れをなし、十一人目の切腹が終わったときに、ついに止めりかれて中止を要請、逃げるようにしてその場を立ち去ってしまった。

儀礼者の遺骸は、堺市宿屋町東三丁の宗珠院に手厚く葬られた。これが「堺事件」であるが、その時の話を聞いた大阪人は、みんな声をあげて泣いたという。

江戸が東京と改められたのは、この「堺事件」のあった明治元年七月十八日、その翌年の明治二年三月二十八日に、平安以来千年の都が東京に移された。新しい日本の、夜明け前のひと齣（こま）である。

支部長に八百村氏再選

広島県備後支部総会

広島県東部地区で結成されている備後支部総会は五月二十三日午後七時から福山市の松の屋旅館において学校側より吉水登教授、校友二十五名出席の下に開会した。支部長のあいさつのあと、吉水教授の学校に関する近況報告及び説明があり、ついで役員改選に移り慎重審議選考の結果次のとおり決定し、最後に関大学歌を高らかに合唱し、始終なごやかにしかも盛大裡に解散した。

新役員つぎの通り。

（支部長）八百村稔（副支部長）勝原博三、金田幸彦、坂口昇、赤松千代史、岡野悦雄、長谷川裕（幹事）八名、代表幹事は赤松治美

なお備後支部事務所は福山市鞆町赤新鉄工所内。

万博気分満喫

斯文会で見学

昭和四年専門部文科を出てから四十年を経た現在、現存者十五名にすぎない。年に一回は旧交を温めることにしているが、ことしは五月二十四日、万博を見学することになった。

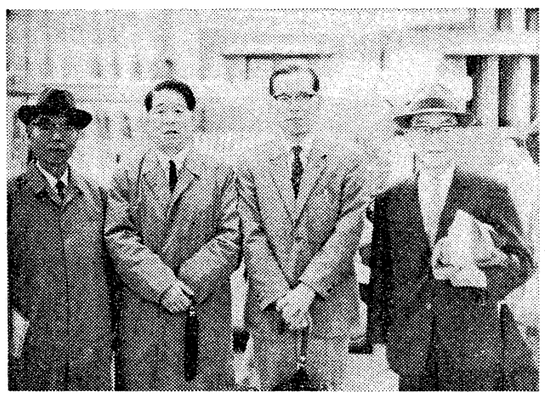
東京など遠隔のものもあり、療養しているものもあって、集まったのは七名であったが、一ばん若い吉田君が63、年長の和田君が70で、一役すまして第一線をひいていて、孫の二、三人はないものはない。

終戦後はじめて会う者もあるが、よく見ると昔の俤はある。すでに万博見学九回の安井君に案内して貰うつもりだったが、安井君が疲労でたおれたので、選んでいた無理のないコースを辿ったが、それでも日曜日のため人気館は長蛇の列である。

会って話しをすることが目的であるから、まずブルガリア館でゆっくり中食、それから韓国館で古典舞踊二回、テーマ館、お祭り広場を見て通るだけ、日本館は三号館まで、後は池畔の休憩所で一献やりながら万博お祭りのふん囲気にしたり、モノレールで二周して大規模な会場を概観して六時会場を後にした。

（参加者）榎川三郎、神屋敷民蔵、新谷武、野田平三、宮崎捨勇、吉田生太郎、和田伝三の諸君。

万博気分を満喫する斯文会の一行



インド館前で阿部野支部役員有志

三谷氏の歓送会をかねた西成支部役員会

人それぞれ

福井県警本部長になった田村八郎氏

□…関大卒業後、23年警察幹部見習生採用試験を受け、26年橋岡警察署長を皮切りに埼玉県警備部長、警察大学校教授、四国管区警察学校長などを歴任、39年には諸外国の警察事情視察のため一ヵ月間欧米、東南アジア13ヵ国を外遊。特に強い思い出としては、26才で山形県楯岡地区警長になった時「弾道下の村」の治安維持に当たったこと。京都府刑事部時代「伏見稲荷神社事件」「大谷家運輸枝による詐欺事件」を手がけたことなどがあるそうだ。

□…四国管区警察局総務部長から福井県警本部長に栄転した田村八郎（たむらはちろう）氏。「警察の運営は県民の支持と信頼を得ねばならぬ。独善的なものであってはならない。また社会の変動・時代の進展にマッチしたものでなければならない。これらを達成するためにも警察官は常に勉強し、高度の良識を備えるように努めなければならない。また仕事はタイムリーにスピーディーに職務を明朗に、そのためお互いに何でもいいたいことを言えるふん囲気をかもし出す必要がある」と五つのポイントをあげて語る。

大阪府議会の議長になった北川石松氏

□…「良い悪いをはっきりと示す青少年と、体ごとぶつかって話し合うのが好きだ」という北川石松（きたがわいしまつ）氏。温和な中にも一本気を感じさせる人である。先般大阪府議会の議長に選ばれた。昭和26年寝屋川市会議員に当選、30年からは大阪府会議員をつとめ、警察常任委員長、東大阪治水対策委員長、政調会長などを歴任した。議長就任の抱負は「当面の万博。跡地利用などの問題もあるが、今はなにより災害人災などがなく無事に終ることを祈っている」という。

□…昭和13年関大二商を卒業して、映画「関西大学」を観賞したあと、懇親会に入った。森川幹事の音頭による乾杯のあと、各自自己紹介、さらに母校教授で顧問の吉永氏より母校の近況報告、最後に学歌斉唱で幕をとじた。

当日出席者は次のとおり。

田原孝平、森川三男、荒木芳樹、坂戸照雄、土井正光、奥野正信、弦義人、森悦子、米村忠、中村和郎、蔵本寛、益田即遷、佐野栄二、大川三三、田村滋、森本後一、古屋敷達夫、萩原弘、新原新太郎、鷲見康夫、飯田茂昭、倉橋昌一、蠧幸雄、戸田竜馬、吉永登、上野良吉、大野雄次。

大阪府議会の議長になった北川石松氏

□…現在の警察については「日本の警察は世界に冠たるものです。これは諸外国の警察事情を視察した経験から確信をもっていえます。ただざびしいのは、上級試験に合格して警察に入ってくる後輩が少なくなっていることです。大いに勉強して警察界にも入ってきて下さい」とのこと。

□…関大在学中の思い出は多いが中でも学科入学時の春日山でのストーム、学生出陣、勤労動員で自動車の運転手をしたこと、自治会副委員長としての仕事など。講義では佐々木教授の憲法、石崎教授の社会政策などに魅ずられたという。植田重正法学部教授がゼミの終講に当たって学生に与えた言葉「常に心に太陽を持って、人のためにくちびるを持て」を生活信条としている。趣味は碁とマージャン。夫人と一男一女の四人家族。昭和23年大法卒。

仕事に没頭した。しかし不当とも思える重税をかけられ、研究所の経営も苦しくなった。「法律」こそ人間を規制するものだ」と関大専門部の法科に籍を入れて法律の勉強もした。

□…寝屋川市会議員一期のあと、大阪府会は四期のベテラン議員。「生活に直結した地方政治は、まず選挙の投票率が高まらないとダメです」と民主政治の意識向上を訴える。「目から厳しく、人には寛大。いつも祈り（感謝）の心をもって」が生活の信条という。趣味は野球、剣道、ゴルフ、囲碁。特に野球は三商大。

森川教授が講演

経済人クラブ25回例会

関西大学経済人クラブ第二十五回例会は、去る六月三日午後五時半から新阪急ホテルにおいて開催した。参加者四十名

今回は「円切り上げをめぐる諸問題」と題し、講師に森川太郎教授を迎え講演を伺った。

日本経済の高度成長がつづき、好調な国際収支を背景に外貨準備高が増え、円切り上げが問題となっている折柄、貿易、物価、対外債権債務への影響をはじめ切り上げ論の背景・切り上げの是非などについて熱心に拝聴した。

大石氏が会長に

大阪市体育厚生協会

先日行なわれた大阪市役所教育委員会内大阪市体育厚生協会総会で、会長に大石雄一郎（大一五専商）氏が選ばれ就任した。その職務は五百余万の大阪市民を対象としたスポーツ、レクリエーション行政に関与すること。

小阪氏の個展　東京でも開く

五月四日から九日まで大阪北区のハクホウ画廊で個展を開いた画家小阪謙造氏（昭二八短二）は六月二日から八日まで東京・銀座の松屋デパート正面にある中央美術画廊で"第十七回小阪謙造油絵作品展"を開いた。

栄転九氏を祝賀

神戸関大倶楽部

神戸関大倶楽部（山崎敏霊理事長）では、このたび栄転などのあった会員九氏の祝賀会を、六月二日北京楼に満堂溢れんばかり約八十名の出席を得て開催した。

山崎理事長が祝意を表されたあと極本校友会長の母校の近況報告を兼ねた挨拶ののち、県を代表し斉藤氏、市を代表し井尻氏の謝辞があった。懇親会は向井幹事長の軽妙な司会に余興が続出し、しばし祝賀ムードに時を忘れ、八時すぎ学歌を斉唱し散会した。

栄転祝賓を受けた人は次の各氏であった。（順不同出席者のみ）

斉藤年生（市民生局長）井尻昌一（市助役）石谷良雄（県警本部公安課長）斉藤国臣（県人事委員長）佐野雄一郎（市交通局長）竹谷和夫（県参事人事課長）坪田健児（市水道局総務部長）安居俊一（国鉄神戸駅長）

森川教授が講演

経済人クラブ25回例会

関西大学経済人クラブ第二十五回例会は、去る六月三日午後五時半から新阪急ホテルにおいて開催した。参加者四十名

今回は「円切り上げをめぐる諸問題」と題し、講師に森川太郎教授を迎え講演を伺った。

日本経済の高度成長がつづき、好調な国際収支を背景に外貨準備高が増え、円切り上げが問題となっている折柄、貿易、物価、対外債権債務への影響をはじめ切り上げ論の背景・切り上げの是非などについて熱心に拝聴した。

大石氏が会長に

大阪市体育厚生協会

先日行なわれた大阪市役所教育委員会内大阪市体育厚生協会総会で、会長に大石雄一郎（大一五専商）氏が選ばれ就任した。その職務は五百余万の大阪市民を対象としたスポーツ、レクリエーション行政に関与すること。

小阪氏の個展　東京でも開く

五月四日から九日まで大阪北区のハクホウ画廊で個展を開いた画家小阪謙造氏（昭二八短二）は六月二日から八日まで東京・銀座の松屋デパート正面にある中央美術画廊で"第十七回小阪謙造油絵作品展"を開いた。

月の石"を見る

阿倍野支部有志

五月八日午前十時三十分「太陽の塔」の下に集合「インド館」「スイス館」「チェコ館」レストランにて中食（チェコ料理とビルゼンビールで乾杯）「フランス館」「アメリカ館」等。印象的だった

阿部氏、大阪府人事委員に

関西大学評議員・校友会参与阿部甚吉氏（昭七専法・弁護士）は六月二日大阪府会本会議において大阪府人事委員会人事委員に任命され、十一日付辞令をもって就任した。

事業計画など作成

西成支部役員会

西成支部役員会は四月二十四日午後六時から大阪南区の料亭アサヒで行なわれた。議題は昭和四十四年度事業報告並に四十五年度事業計画、支部名簿作製の件、校友会本部案報告の件などで、のち三谷久男氏の海外視察旅行歓送会を開催した。

当日出席者は次のとおり。

小林正立、三谷久男、木村清一、田中芳夫、三好一夫、田村留三郎、吉川雪三、井口守久、中島久綱、中西正夫、鷲見英雄、野村広一、矢田武、岩原金一、榎本博康。

三新会員参加

伊丹支部総会

校友会伊丹支部は六月五日午後六時半から伊丹市庁前のグリルシスター本店で総会を開催した。

会は秋原副支部長の司会で進められ、安井支部長が病気欠席のため、田原副支部長があいさつした。つづいて新入会員三名を紹介

学研本部OB会

組織化へ三十名が集う

かつて在学中学術研究会本部役員であった校友をもってOB会を結成し、相互の親睦を深めようとその準備会が、去る六月七日正午よりミナミ九郎右衛門町"せき"において約三十名参集の下に開催した。

当日は本部顧問矢口教授、校友会全本組織部長も出席、創部以来十数年を経て、遠くは東京からも駆せ参じるなど、OB本部長を中心に過去を偲ばれ、今後の運営について協議した。

当日の決定によると、まず幹事の下で会則その他設立準備を進め

談会の運びとなっている。

寒川労働コンサルタント衆議院議員寒川喜一事務所

所長　寒川喜一

事務所　大阪市西区阿波座上通一ノ二七（新松岡ビル三階）

住所　（地下鉄3号線本町駅「旧信濃橋」南西出入口前）

電話　大阪（〇六）五四一一〇六六番（代表）

大阪市西区南堀江花屋敷通五ノ九南堀江住宅四〇八

電話　大阪（〇六）五四一一五〇九五番

年会費納入は七月末までに

昭和四十五年度の年会費納入は円）を納入下されば幸いです。

なおこの機会に終身会費（五千会員により、七月末までとなっています。未納の方は本号折込みの振替用紙で早目に納入して下さい

会費の一括納入をお礼

校友会昭和四十四年度収支決算については、一面掲載の通り代議員会において承認されたのであるが、当年度年会費収納について支部・職域関係において一括収納をいただいたところは次の通りであり、ご芳志に対し厚く御礼申し上げます。

此花区役所17・大淀区役所22・西区役所22・福島区役所9・堺市役所80・近鉄支部87・東淀川区役所40・毎日新聞社80・電々公社50・大阪銀行42・郵政関大会70・神戸日産18・尼崎市役所140・奈良市役所49・西宮市役所45・東大阪市役所137・韓国本部85・山陽電鉄16・高島屋38（順不同、数字は件数を示す）

大島特許事務所
所主　弁理士　大島武夫
弁理士　大島一公
弁理士　辻本一義
大阪市西区江戸堀北通二丁目二十五番地（とみたビル）
電話（四四一）一一〇〇・一三九四（四四三）六一五〇

校友の皆様

ミナミ（なんば）での御会食・中小宴会には
大衆価格で高級ムードが楽しめる当店へ是非
お揃いで！　交通至便！

中華料理店
盧 ROCO 胡

●場所…地下鉄四ツ橋線なんば駅
南出口東へ50メートル

代表者
山東眞一
（37年度法学部卒業）
TEL（631）5927

商業手形割引専門

少しでも、安く、早くと願う所に繁栄があるのです

大阪営業所　大阪市浪速区日本橋筋四丁目七五番地
TEL（633）1421（代）・6891（代）・5961（代）・9861（代）・8813（代）・8798・（631）7721

株式会社 天偉
代表取締役　水本恵庸

神戸本店　神戸市生田区栄町通5丁目34　TELL（34）0337・5600・8726
銀座店　東京都中央区銀座1丁目3番3号　TELL（567）5431－5
新宿店　新宿区角筈1－27　ミヤコビル4F　TELL（379）2601－3
梅田新店　大阪市北区神山町45番　TELL（363）1036（代）
北浜店　大阪市東区道修町2丁目41番織田ビル2F　TELL（231）1312（代）

Burroughs
電子計算機
会計機／加算機
ビジネス・フォーム
電子部品
アンコール・カーボン

米国バロース・コーポレーション日本総代理店
高千穂交易株式会社
取締役社長　鍵谷武雄
（本社）大阪市北区小松原町27（大阪富国生命ビル）
TEL大阪（06）313－3381大代

関西六大学野球 春季リーグ戦 三シーズン連続優勝

〝精神野球〟が開花

見事！監督、選手の一体化

関西六大学野球春季リーグ戦の優勝をかけた関大―関学3回戦は六月一日、日生球場で行なわれた。つめかけた同校応援団の声援、決勝戦にふさわしい緊迫したふん囲気の中で争われた一戦は、関大が先手を取り関学を振切って、戦後初の三シーズン連続通算二十七回目の優勝をとげた。今シーズンの関大の成績は、12試合8勝3敗1分、勝点4、勝率0・727

やったぞ！戦後初の3季連続優勝を達成した関大ナイン（毎日新聞社提供）

五月三十日三千人、三十一日五千人、六月一日四千人。昨秋に続いて関西六大学野球リーグ戦の優勝を争った〝関・関戦〟に日生球場へ詰めかけたファンの数だ。チャンスに肩を組み、ピンチに大声をあげて声援する学生、OB。そこには〝低迷する関六〟の世評を吹き飛ばす熱気と若人のほとばしりとした姿があった。

グラウンドのプレーも三戦とも手に汗握るすばらしいものだった。「どちらも勝たせたい。勝負は二の次だ。久しぶりに本当の学生野球を見せてくれた」の声が自然にわきあがってきたものだ。

こうした緊迫したムードの中で初戦を落としながら見事逆転優勝をやってのけた関大。木島主将を中心にした一糸乱れぬチームワークでピンチを乗り切った粘り強い精神力。達摩監督のモットーとする〝精神野球〟の花が、いま咲きそろったといってもいい。

精神野球。この抽象的なことばのなかにこそ学生野球の本質、そして関六野球の支えがある。スポーツは勝ち負けを争うものであるは上、勝つことに全力をつくさなければならない。だが現在はあまりに勝負にこだわりすぎてはいないだろうか。特に学生スポーツは勝つことがすべてではない。勝つために自分の持てる力をふるに発揮する。勝負は結果論であって、その過程が大切なのだ。この忘れられがちなアマスポーツの原点に立って野球指導を始めたのが達摩監督だ。他校にくらべて〝甲子園をわかせたスター〟も少なく、選手個人の力もすぐれているとは決して思えない。だのに戦後初の三シーズン連続優勝の偉業をやってのけた。その裏にどっしりと腰をすえていたのが「持てる力をふるに発揮しろ。そこから何かをつかみ取るのだ。勝つだけが野球ではない」との確固たる信念だ。選手も監督の信念をよく理解した。対関学最終戦。試合開始時間は前夜の雨でグラウンドコンディションが悪く、二時間遅れて四時になった。二時のつもりで集合した選手は「オレ達のために一生懸命応援してくれる学友の席が汚れていては申しわけない」と自主的にスタンドの掃除をかって出た。この時すでに関六の優勝は決まっていたといっても過言ではないだろう。

もう一つ見落とせないのが達摩監督の思い切った采配だ。第二戦から捕手に四月入学したばかりの岡谷を使った。だれがみても〝やけっぱち〟としか見えない選手起用だった。だが他人の目には不思議に思えた作戦も監督の目からすればすべてを読みつくしたものであり、選手を全面的に信頼し切ったものであった。岡谷が「まさか僕が先発メンバーにはいるとは思ってもいなかった。でも監督から〝いけ〟といわれた時はうれしくてどんなことがあってもホームベースを守り通してやると誓いました。それにピンチになると松崎さんがベンチから大声で励ましてくれましたので……」と涙ぐんだように、ナインが一体となって勝つために全力をつくした姿がそこにあった。

監督就任七シーズンで四度の優勝を飾った達摩監督。その教え子たちは社会人としても立派に活躍している。かれらの心には野球部時代にたたき込まれた逆境に負けない精神がある。先輩の栄光を引きつぎ、さらに新らたな栄光をしるしていく関大野球部。達摩監督が〝関・関戦〟を前に関学のマネジャー田居君に「オイ、さすがは関・関戦といわれるいいゲームをしようぜ」といった言葉と、閉会式で全日本大学野球選手権大会代表旗を手にした関大ナインに数千の関学応援団席から「日本一になってこいよ」と投げかけられた激励を関大野球部は忘れてはならない。

（T）

アンナプルナⅣ峰登頂記録

緊張の十二時間

夕ヤミの頂上に日の丸

アンナプルナⅣ峰の登頂に成功した関西大学山岳会ヒマラヤ登山隊は、五月二十日午後八時五十分に帰着のタイ航空609便で大阪空港に帰ったが、同隊の登頂記録が編集部に寄せられた。

隊長　川北昌博

――ベースキャンプ設営――

ポカラからマルシャンディ・コーラぞいにたっぷり十日間、隊員・シェルパ・ポーターと六十六名から成るキャラバン隊は最後の谷サブシチューの春まだ遠くを感じさせる深い雪の中を、ポーターは素足の素手日も暮りつめた四〇〇〇㍍地点にベースキャンプを設営する。

ベースキャンプから見上げる目指すアンナプルナⅣ峰は首が痛くなる程、見上げなくてはならない。アンナプルナⅣ峰を中心に左側にⅡ峰、右にスノードームから大きく切れ落ちてⅢ峰がそそり立ち、そのスケールは圧倒せんばかりである。この大きなスケールに隊員達はのみ込まれないように注意しなくてはならない。休むことなく隊員とシェルパ達は力を合わせて攻撃の体制に入り、川北、シェルパ、ガルチェン・タブーの三名で第一キャンプへのルートをつける。そして荷揚げは八日間の日数を費し、隊員達は次第に高度順応しながら荷物を集結完了したのが四月七日。

その間、竹尾、鹿田、シェルパ、ガルチェン・タブーの三名で第二キャンプへのルート工作に全力をあげていた。第二キャンプへのルートはスノードームからの雪崩が多く、危険な巻りとなり、急な雪壁を巻り切った五六〇〇㍍地点に設営。

――第三キャンプへ――

第三キャンプからは、いよいよスノードームからの雪稜づたいに高度を上げる。この雪稜は北側はサブシチューの谷まで垂直に切れ落ち、南側は大きなアイスフォール帯に落ち込んでいる。第三キャンプ予定の手前には、アイスフォール帯からの荷状になった青氷の壁が我々の行く手をはばんだ。第三キャンプから第三キャンプへのルートは雪崩の危険を考えて予定より下の雪の棚状の上に設置し、青氷の壁に川北、古谷でロープを固定し、スノードーム六〇〇〇㍍付近までのルート工作を行なった。

天候は周期的に悪く、大体の予想は立つものの、どんなことが待ち受けているかわからないし、第三キャンプを前進基地とするためにも、安全な位置に設営しなくてはならない。その間、竹尾、鹿田、市島、寺本とシェルパ アン・バブ、ガルチェン・ヌブーらは第一キャンプから第二・第三キャンプへと荷揚げを懸命に行なう。第三キャンプから見上げるアンナプルナⅣ峰はひときわ高くそびえ立ち、予想以上に行程が長く、隊員達の気持ちをさらに緊張させた。六五〇〇㍍以上の稜線から絶えず雪崩が落ちて、落差二〇〇〇―三〇〇〇㍍、大きく雪煙をあげながらアイスフォール帯を流れ落ちる。

いよいよ第三キャンプからスノードームを越えて稜線上に第四キャンプを設営するため出発。スノードームへの登りは固定ロープを使って急な雪壁を登り切ると、稜線へ出るために二つの大きなクレバスを越える。そして順調に高度をあげる我々の前に、稜線直下一〇〇〇㍍の地点に予想もしなかった大クレバスがあらわれ、隊員はあ然とした。線稜上へはテントを出すことが出来ず、アイスグロックの上に第四キャンプを設営。

――頂上攻撃――

四月二十三日、稜線上へのルートが大きなクレバスにはばまれ、予定地点に第四キャンプが作れなかったため、今日こそは稜線上にルートをつけるべくクレバスの中に入る。稜線へ出るにはどうしても青氷のオーバーハングの壁を三〇―四〇㍍巻らなければならない。アタック隊を送り出すために川北、西鳴は全力をあげた。六五〇〇㍍の高さでの氷壁は大変なアルバイトである。四時間の悪戦苦闘の末、稜線へのルートがつけられた。アタック隊の二名とサポート隊は出来るだけ高所へキャンプを作るべく頑張る。

四月二十四日、いよいよアタックの朝が来た。アンナプルナⅡ峰Ⅳ峰とⅢ峰は朝陽を受けて美しく輝き雲一つなく、遠くチベット方面の山波もひときわ美しく見える。しかし風が強く、アタック隊のいるビバークサイトは想像以上の強風で息をするのも困難な状態で、一旦アタックをかけたが退却する。

明けて二十五日朝五時三十分、アタック隊と交信の後、再びアタック体制に入った。六時十分、竹尾、古谷のアタック隊はアンナプルナⅣ峰の頂上を目指して出発し間もなく大きなクレバス帯を乗り越え、第三キャンプから確認出来る視界の中に二つの点があらわれ、元気な足どりであることが第三キャンプのドクターから、各キャンプの隊員達に交信がある。

頂上へのルートは北面側の雪壁をトラバース気味に登り、頂上から大きく切れ落ちたジャンクションまでかなりの時間がかかる。ジャンクションから上のルートは急な雪壁をカッティングしながら慎重に登る。

各キャンプでは緊張した何時間かが過ぎた。

実に最終キャンプを出発して十二時間、竹尾、古谷のアタック隊はタ方やみせまるアンナプルナⅣ峰頂上に到着した。

アタック隊は日の丸、ネパール国旗、そして我が関西大学山岳会旗を力強く打ちふった。感激の一瞬。ついに日本人初のアンナプルナⅣ峰登頂に成功したのである。

――撤収・下山――

次の日アタック隊は第四キャンプへ下って来て隊員達と喜びの再会をした。休む間もなく天候の崩れないうちに第四キャンプを撤収し、第三キャンプへ到着した。

第三キャンプではシェルパ・アン・バブ、ガルチェン・ヌブーらの祝福を受け、小雪降る中を第三キャンプを撤収し、次いで第二キャンプへ合集結した。撤収は関六式撤収で全隊員、シェルパ共、ものすごい量の荷物を担ぎ下る。

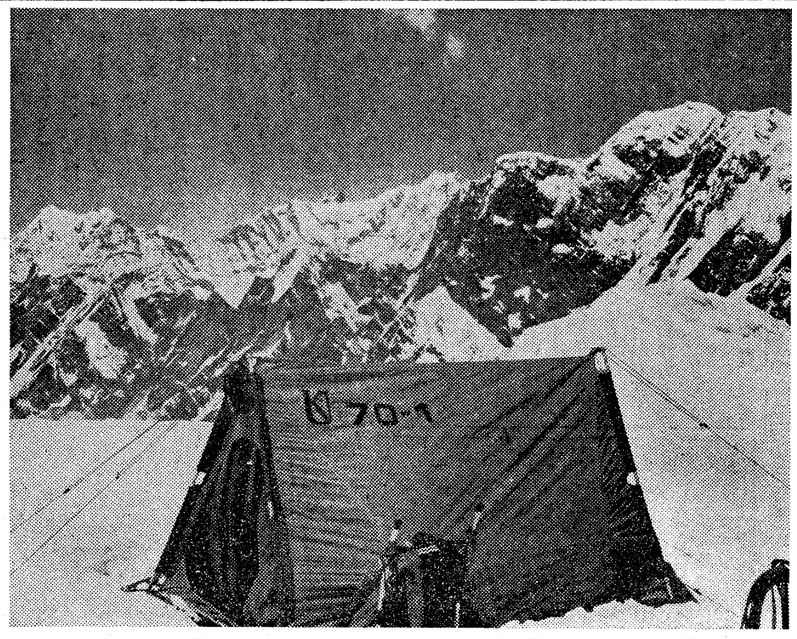
次の朝、装備、食糧整理の後、全員ベースキャンプに下る。Ⅳ峰登頂までたっぷり一カ月間、大変苦しいが充実した毎日であった。ぐったりと疲れた身体でベースキャンプへ到着すると、ベースキャンプ周辺はまったく雪が消え、木々の若葉が芽をふき土の匂いがしてサブシチューの谷はアンナプルナⅣ峰、Ⅲ峰の北面の雪解けの水を集めてゴウゴウと音を立てて流れている。

ベースキャンプで一日ゆっくりと休養している日、シェルパ達は一日がかりで第一キャンプからベースキャンプへ荷おろしをやってくれる。

何日かベースキャンプで休養したい気持ちだが、我々の登山隊の許可が四月三十日までにチャーメのチェックポストを通過しなくてはならず、急ぎマナンへポーターを集めに行く。

次の日、マナンからのポーターは、女ポーター二十一名、男ポーター二名を雇用しやっと帰りのキャラバンが動き出した。マナン・ピサンと最初のキャラバンと違って不安な張りつめた気持ちはまったくなく、隊員全員は登頂の喜びを一歩一歩感じながら進む。

五月十一日、全員元気でポカラに着いた。五月十八日、十九日と二日に別れてポカラをあとに、五月十九日カトマンズに帰着して、たくさんの人達に祝福をうけた。


ビバークサイト（第5キャンプ）からアンナプルナ（右から）Ⅲ峰、主峰（中央）、南峰を望む

書斎の窓 ⑤

越後和典

きめ手欠く物価対策

新しい経済理論の構築を模索

サムエルソンはその名著『経済学』の中で、南北戦争のさい起こったインフレについて次のように書いている。「かつてはポケットに金を入れて店にゆき食料をバスケットに入れてもち帰ったものだ。ところが、今日ではバスケットに金を入れて店にゆき、食料をポケットに入れてもち帰る状態である」。たしかにこうした「駆け足インフレ」は今は昔の語り種となったが、それに代って「這い寄る（クリーピング）インフレ」と称する新型のインフレが発生しジワジワと国民の生活をむしばみはじめている。

長い間、資本主義の不治の病気で、やがてはこの体制の命とりになると考えられてきた失業問題は、ケインズ政策によって治療可能となったが、この新型インフレばかりは現在のところきめ手になる治療方法がない。

なにぶん比較的新しく発生した病気だけに、その正体・感染径路・治療方法について、学者の間でも意見はまちまちである。もちろん誰もがこの問題に重大な関心をもっているから、日本でも外国でも「価格のクリーピング・インフレに関する文献のギャロッピング（駆け足）インフレ」（マッハルプ）が発生している現情だが、これぞという定説がないのが実状だ。

しかし原因の究明などが不確かだとしても、現実問題としては放置しておくわけにもゆかない。そこでたとえば物価安定会議などは、気のつくことを片っぱしからとり上げ提言するということになる。いわく一般会計予算の規模は極力圧縮しなさい。金融も引き締めなさい。輸入の自由化を促進しなさい。価格支持的な効果をもつ行政介入は再検討しなさい。農業・中小企業・サービス業などの低生産性部門の生産性向上対策に力を入れなさい。家賃・地価の抑制対策を至急講じなさい。公共料金は当分すえおきなさい。公害事業の在り方を再検討しなさい。労働力の流動化を促進するための施策に真剣にとりくみなさい――。

かくて物価安定会議ないしその前身の物価問題懇談会は、小称「豆腐」「しょう油」の価格安定策から、大は財政・金融政策の運営にいたるまで、キメこまかく提言してきた。ただしそれらの提言が政府によってまきとりつつある運命と酷似している。「ガン」の正体を見きわめずに、苦闘できくかもしれないとわざされている薬を一通り取り出し、「さあこれを飲みなさい」といわれても、飲む方の身になってみれば、途迷いもするだろう。「ガン」の征圧は科学的でなくてはいけない。

クリーピング・インフレは現代病だといっても、その症状は患者の体質などによって各国さまざまであるから、外国製の処方箋や薬をそのまま直輸入してまにあわせるわけにはゆかない。しかし世界の先進資本主義国が多かれ少かれ、この病気に悩んでいるということは、突ほそこに共通の原因なり、類似の経済の体質があるからだ、という認識を持つことが最も大切である。そのような共通の要因としてとくに重要なのは完全雇用の達成と維持と経済政策の至上目的として政策運営が行なわれるようになっていることと、経済セクターの市場形態が寡占化し、価格が「管理価格」化する傾向があるという二点であろう。

今日われわれの周囲をみわたしても、その価格が市場の非人格的な「見えざる手」に導かれて、おのずときまるといったきまり方をしている商品は非常に少ない。大企業の製品価格はおおむね「寡占価格」としての管理価格であり、原子状の市場構造をもつ産業に対しては、政府が直接的・間接的にその価格形成に介入している。文字通りの独占の製品・サービスは公共料金の形をとる公的管理価格だ。これらの管理価格の中でも政府の行政介入によるものや公共料金の場合は、政治の姿勢によってまだ改善の可能性があるが、処置のないのは寡占企業の私的管理価格である。各寡占企業は製品差別化と生産量の調整を通じて、製品価格をある程度自分できめる。その上お互いに競争相手の事情がよくわかっているので、値下げによる大量販売の利益がよほど確実に見通される場合以外には、めったに価格競争をしない。なるべく価格にさわらずに、製品のモデル・チェンジ、アフター・サービス、広告・宣伝などの戦術に訴える。

このように寡占企業は自分の製品価格をある程度自分で決めることができる。雲霞は生産性向上でコストが低下しており、賃上げをしても経営者は一向に困らない場合が少なくないが、賃上げがなされると、これを口実に利潤マージンを高めるために、管理価格の引き上げがなされることになる。かくて賃金も利潤もあがり放しとなる。最近の日本経済を見よ！

こうなると寡占企業では労使の利害は必ずしも先鋭に対立しない。労組は企業がますます巨大化し、市場支配力をもつようになるのを内心では希望するようにさえなる。大型企業合併や産業再編成に対して、企業別大労組がとってきた「にこやか」な態度は、単純化されている。たとえ価格が引き上げられたとしても、もし購買力ないし需要の増に受動的であり、財政・金融政策は常に適切に運営されているなどといっているのではない。

マッハルプのいう支持的需要増加という仮説は、反対論者の指摘するようにけっして立証されてはいない。大切なことはまして私の強調したいことは、現代の新型インフレは産業経済の寡占的体質を抜きにしては何一つ解明できないだろうということである。

フィッシャー・ケンブリッジ学派、フリードマンなどの貨幣数量説、ケインズのデマンド・インフレ理論等、従来のインフレないし一般物価水準変動の理論は、それぞれに特色をもつすぐれた仮説ではあるが、寡占経済の現実には十分な適合性をもたない。不完全競争ないし寡占的競争が物価に与える影響を解明するには、その理論構造は長年の研究の蓄積にもあまりにも重大な欠陥をもっているように思われる。新型インフレが管理価格とその基礎にある寡占的競争、現代労働組合の行動様式等、現代資本主義の構造ないし体質と密着している以上、そうした体質の究明に立脚した理論が必要であり、さらにはそうした体質のものが、家す十分に行なわれることが肝心だろう。

しかしこの方面の研究は非常にたちおくれている。なるほど抽象的な価格理論は、クールノー以来、不完全競争の理論的分析という形でさきざきに試みられてきたし、ワルラスやヒックスの一般均衡分析は、価格機構の作用様式の抽象的解明に大きく貢献してきたが、そうした理論の前提する条件は、現実とあまりにも大きくかけはなれているのである。スペースの関係からくわしいことは述べないが、私などの近年力をそそいできた産業組織論は、産業経済の実証的研究を通じてミクロ理論の仮説やモデルの有効性を検定し、そうすることによって逆にミクロ理論を現実の試練にたえうるような形に再構成することを、終局のねらいとしている。

結論を急ごう。話は大きくなるが最近ミクロ理論とマクロ理論の統合の必要性がようやく認識されてきた。ミクロ理論に含意されたマクロ理論、逆にマクロ経済学的一般化に含意されたミクロ理論を内在的に再検討し発展させることによって、およびそうすることによって、整合性のある現代寡占経済の基礎理論を構築することが、この課題なのである。クリーピング・インフレの解明や、完全雇用ないし経済成長を物価安定と両立させる政策的ノウハウの開発など、総じて現代経済政策の主要問題の解明には、そうした理論構築がぜひとも要請されているのだ。

大学の質は講義の質によってきまり、後者は教授の研究者としての水準によって決定的に左右される。（大学改革がこの大局を見失うとき、大学は転落する）現代経済学の課題と経済学徒に課せられた任務の性格を想うとき、私は自分の非力を痛感せざるをえない。同時に、研究・教育の充実に役立ちそうにも思えないくだらぬことに浪費される時間を、切実に惜しいと思うこの頃である。

（経済学部教授・経博）

関大が優勝

全関西学生拳法

全関西学生拳法選手権大会は五月十四日、大阪府立体育館で十七校参加のもとに行なわれ、関大が優勝した。

▽一回戦
関大 7対2（1分）　電通大
▽二回戦
関大 6対5（1分）　関大二部
▽準決勝
関大 6対2（1分）　京産大
▽決勝
関大 7対5　大経大

なお関大の筒井二段が合計11人抜きを演じ、最優秀選手に選ばれた。

八年連続総合優勝

関西学生フェンシング

関西学生フェンシングリーグ戦は五月十一日から六月四日まで、大阪府立体育館別館・愛知県立体育館別館で行なわれ、関大は一部リーグにおいて、フルーレ優勝・サーベル優勝・エペ2位で八年連続総合優勝を飾った。

株式会社 トーヨー レイバー・コンサルタント
（当社は三井鉱山株式会社の関係会社で労働関係の一切の御相談に応じます）
営業取締役 大阪支社長 藤田猛
大阪本社 大阪市北区中之島三の五（三井ビル）
電話 四四一一〇 六八九（直通）
本社 東京都中央区日本橋室町二の一の一（三井ビル）
名古屋支社 名古屋市中区栄四丁目三番二六号（昭和ビル）

特許・商標・出願全般・審判事件
（日・英・米・独・仏・伊・スイス・ベルギー）（中近東・東南アジア諸国・韓国等取扱）
鈴木国際特許事務所
所長・弁理士 鈴木武夫（昭和五年 大法卒）
大阪市西区四長堀南通二丁目九番地 藤村ビル二階
（四ツ橋交叉点南50m東側 地下鉄四ツ橋線四ツ橋駅中央出入口隣）
電話 大阪 〇六（五三二）七四三一～七四三四 七四三五（所長室）

株式会社 大阪城口研究所
冷暖房換気設備工事
給排水衛生設備工事 設計並びに施工
取締役社長 城口庸平
本社 大阪市北区高垣町一番地 電話 大阪 三七二局七一五一番（代表）
京都出張所 京都市東山区大和大路正面上ル 電話 京都五六一局四九四四番（代表）
神戸出張所 神戸市生田区下山手通六丁目一番地 電話 神戸 三四局 五八九二番

強靱鋳鉄 特殊鋳鉄
今福鋳造鉄工株式会社
取締役社長 松井謙松
大阪市東区今福中3丁目28番地
TEL 06（939）2621（代）

NCC
日本珈琲貿易株式会社
取締役社長 武田佳次
主要取扱い商品
コーヒ豆・紅茶・ココア・3Mジュース
輸入瓶缶詰・乾果物
西ドイツ製コーヒー焙煎機ならびに附属品
西ドイツ製〝メリタ〟コーヒー紅茶抽出器他
輸出業務一般
本社 大阪市南区横堀七丁目二十三番地
TEL 大阪 251―5858（代表）
支店 東京・名古屋・福岡

カーペット
モケット
緞通
モケット カーテン地
椅子張地
紡毛糸
住江織物株式会社
本社 大阪市住吉区墨江中2丁目18番地 電話 673―1331（代表）
本社事務所 大阪市南区安堂寺橋通4丁目55番地
大阪支店 電話 251―0081（大代表）
東京支店 東京都港区西新橋3丁目23番1号 電話 433―4171（大代表）
工場 住吉・河内・京都・網野
営業所 札幌・仙台・金沢・名古屋・広島・福岡

洗練された観客

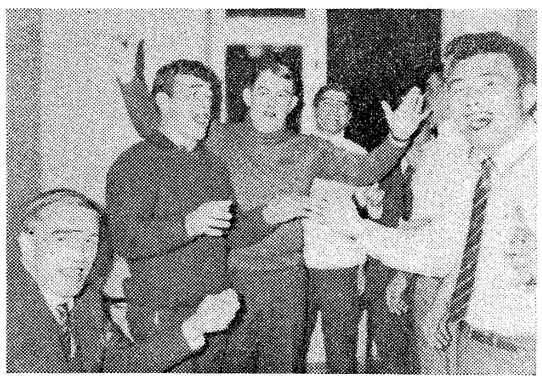
ソ連遠征とその雑感

伴　義孝

◆ソ連のスポーツ　ソ連のスポーツは、人心を政府共産党の目標に指向させるという国策の基に完全に統一されている。それ故その参加人口は計り知れない質と量で、ステートアマチュアと呼ばれる所以である。一九六三年のスパルタキアードの予選大会から、本大会までに参加した選手の延人口は六、六〇〇万人といわれ、これはソ連人口の三割近い数字になる。ちなみに一九六五年のソ連共産党員は人口二億三千万人に対して一〇、三八七、一九六人（世界大百科事典調べ）で、この数比を考えてみても、如何にソ連共産党が国民の心を政府共産党に志向させるために努力しているかがわかる。

ソ連も多分に漏れず現在国民のレジャーの問題に悩まされている。党はレジャーの増加を恐れ、なお一層スポーツ活動組織に力を入れ人心を引きつけている。ソ連のスポーツが社会体育中心、かつスポーツソサイエティという機関が非常に発達しているのはそのためである。

実際我々が練習調整のため訪れた三、四のスポーツソサイエティでの環境は羨ましい限りである。



各国コーチとウォッカを飲み、言葉の不自由さをレスリングを通じた共同理解で補い、やがてロシア民謡の合唱が始まった。

案種梅雨が終ったような、終らないような空模様、不安定な心持ちで書斎の窓から外をながめている。一体こんな気持ちは何を意味しているのだろうかと、けだるい物思いにふけりさせる。関大改革案第一次答申が去年の今頃を思い出させ、一年の経過がようやくたどり着いた結果なのだろうかと。しかし今漸く大学の体質改善の第一歩がふみだされたばかりに過ぎないのだ。一体これからどう歩むのであろうか。

話は変るが、プロ野球の八百長がながく尾を引いて取沙汰されている。いま大学の新しいルールが引かれた時である。教授と学生という対応関係をスポーツに喩えるのはどうかと思うのであるが、これも定まらない空模様の加減と思ってもらいたい。

イギリス型のサッカーのルールらしいルールのないところが、アマチュアスポーツとして小学生にまで普及している。レフリーの判定に総てが委せられている単純なルールがスポーツとして受けているらしい。それに反してアメリカ型の野球のルールはどうであろうか。ルールの上にルールが、微に入り細にわたって、完璧なものへと進歩している。そしてスポーツの花形としてプロ選手まで作っている。日本の古来のスポーツといわれる相撲は野球のようなものだろうか。スポーツとしてはその興味とその限れる場の限り第一次答申はしょせん第一次答申であるだろう。

去年のはげしかった学生運動のことを思うと、第一次答申も大学の成長にとって大きな発展でなければならないだろう。はっきりと学生の抵抗権などという言葉が大学の先生から持り出されたということ、うちの親父が聞いたらどういうだろうか。大学の先生は学生に向っているのかと、一喝の雷喝かざる得ない。プロ化したスポーツにはもはやフェアプレイは、その時日の丸の選手の選手の中に、それらの合宿に参加している選手の中に、日の丸や国歌の厳粛さが理解出来ない選手もいる。その責任は現在の日本の教育界にあるのだ。

教える者と学ぶ者との間には、共通の場があるはずである。そこにはルールのない導重とフェアプレイがあると思う。しかし日本のスポーツを思うと、時にはそれがアマチュアではなくて、プロ化して行くの雷喝かざる得ない。プロ化したスポーツにはもはやフェアプレイはなく、ただ勝つためにのみ存在する。それは少々の反則が平気でやるということであり、ファイト、ファイトと乗出した世での声援を送る次第である。

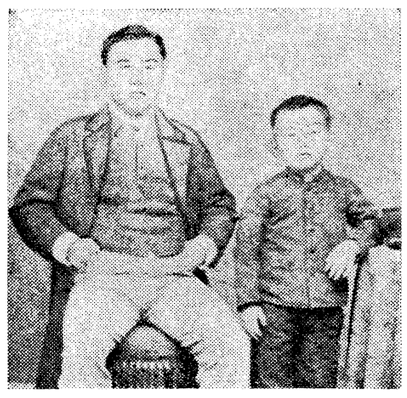
過去の学生運動をみると、それがどうであったかは容易に判断を許さないとしても、戦争を否定する革命家たちが、日本という地盤の上で成長し、同じ関西大学という学園のなかで、戦術を用いることなく、正々堂々と土俵の上で両雄あいまみえることが望ましい。それこそ日本民主化の方向ではないだろうか。プロ化したスポーツが、スポーツの衰微である如く、戦術化した革命運動によって、学園が破壊されないことを祈っている。

要はルールというものも、それを動かす人間の問題に還元されることを忘れてはならない。やっぱり学生の抵抗権などという言葉が大学の先生から持り出されたということ、うちの親父が聞いたらどういうだろうか。大学の先生は学生に向っているのかと、一喝の雷喝かざる得ない。プロ化したスポーツにはもはやフェアプレイは、佐久間象山を祀る象山神社が、渋川忠二郎、そして裁判長が井上という顔ぶれであった。検察官はたるかを知らなかった。井上は徴兵に対する井上操の講義としては「刑法講義」「哲学刑法」「日本行政法」の三種が残されており、先年、故春原源太郎博士の創立者たちが任務の関係で、次々と本校を去っていったが、井上は比較的長く大阪に留まり、本校の発展を温く見守っていた。

創立当初の生徒たちは、判検事や代言人の書生が多く、そして講師はいずれも、判検事や代言人だったから、学校の空気はきわめて家族的であった。井上は講師中の長老格として、生徒たちからはもちろん若い講師たちからも、父のように信頼されていた。「七十年史」「アート版」掲載された第三回卒業写真（明治二十四年）をみると、井上は十すぐられの男の子を膝にのせている。たぶん長男の敏夫君（のち大阪控訴院判事・昭和二十四年、七十三才で死去）ではないかと思われる。軍服姿にピゲを生やした有田校長も男の子を膝にのせて写っている。卒業生の数は二十名内外。一時に数千人の卒業生を送り出す昨今の卒業式からみると、うたた隔世の感が深い。ちなみに有田校長は、例の網島の某富豪邸内に井上家と隣り合わせに住んでいたという。

明治二十六年のある霜の降った朝、天満橋の上で井上の乗った馬がころび、井上は大怪我をした。周囲の者たちが心配のあまり、かれは無理に出勤したばかりでなく、学校のこともすっておけないといって、講義に臨んだ。しかし、このことがあってから彼の健康はすぐれず、やがて中風の症状を呈してねこんでしまった。もともと酒好きの方で、今でいう高血圧症であったものか、落馬の衝撃で発病するに至ったものであろう。しばらく養生したが、再起不能ということがわかり、明治二十七年控訴院の方も辞任するの止むなきに至った。この年、特旨をもって従五位を授けられているが、これは長らくの司法官としての精励を賞されたものであろう。そして、この年の秋、かれは郷里松代に帰臥した。ちょうど日清戦争が始まった頃で、「すれちがうとの列車にも、出征の兵隊さんが満載されていました」と、岸田なつさん（当時、小学三年生）は語っている。もと松代町四つ屋にあった現在の生家は火災にあっていたので、代官町に家（桜井氏の旧宅）を買い求め、静かな自然を賞でながら療病につとめた。一時、東京に出て弁護士になろうとしたことも、病状はかばかしくなかったが、後遺症の言語障害がたたって、結局断念せざるをえなかった。家官が日清戦争であったので、かれは大阪に住んでいたころから、法華経の写経を日課にしていたが、信州に帰臥してからも、気分の良い日は経机に向って写経をしたり、昔の書生たちがときどき見舞いに来てくれるのをたのしみにしていた。武田宣英や朝井矢一が義理がたく、ときどき松代に顔を見せた。

明治二十四年六月二十一日、東京市会議長等が暴漢伊庭貞の兇刃に倒れた。このことを新聞で知った井上は、今後、代言人や公証人は上にあげるなどたしなめたという（武田談）。人情味がある一面、美しい自然と、温い親族、旧知に囲まれた井上操の晩年は、決して淋しいものではなかったと思う。司法官としての栄達は十分達せられなかったとしても、かれは決して不仕合せではなかった。帰郷後、明治二十八年二月二十三日、かれは五十九才の生涯を閉じた。法名は操忠院殿義盛日顕居士。墓は蓮乗寺の父母の墓に隣りして営まれている。（完）



井上操と長男修治君（明治22年撮影）

関西大学を築いた人々

井上操②

文学部教授　薗田香融

本校創立前後

明治十九年七月、それまで司法省にあって、法典編纂事業に携っていた学究エリート、井上操は、大阪事件の裁判長として大阪に赴任した。井上を大阪に配したことは、司法省がこの事件をいかに重視したかを示している。

大阪事件の公判は明治二十五年五月二十五日にはじまり、同年九月二十四日に終るまで、実に九十七回の公判が開かれたが、この間つねに傍聴席は満員であった。被告席には、旧自由党左派の領袖大井憲太郎をはじめ、北村透谷の「楚囚之詩」に「雪の花」とうたわれた景山英子らが着いた。検察側は「国事犯の堀田」といわれた堀田正忠が立ては、弁護側は、東京の星亨、千葉の板倉中、大阪の砂川雄峰、渋川忠二郎等々、そうそうたる連中が論陣を張った。

第一回の公判で、裁判長が六十三人の被告を九組にわけて審理しようとしたのに対し、弁護側は一斉審理を強硬に主張して冒頭から一荒れした。また壮士たちの携えた爆弾が果たして本当に爆発するかどうかが問題となり、弁護側の要求により大阪砲兵工廠が化学的分析を行なった。刑事弁護で化学的実験の行なわれたのは、これがはじめてだということなど、とにかく話題の多い公判であった。そして何よりも自由民権運動の最後を飾る「事件」として、この法廷弁論は自由民権運動史上、聞くべきところの多くものであったが、ここでは省略にしたがう。こうして天下の注目を集めた検察官の裏側で、関西法律学校の創業が行なわれたのである。

井上が大阪控訴院評定官（年俸千五百円）の辞令を受けたのは、明治十九年七月であるが、ちょうどこの年の六月二十四日に生まれた井上の三女、岸田なつさん（松代町に現存、八十四才）に聞くと彼女の生後百日目のころ、東京麹町から大阪に移ったというから、家族の転居したのは九月末か十月初であったらしい。大阪の住まいは、網島の某富豪の別邸（姿宅？）の一隅にあり、書斎からは、川越しに遠藤川の桜がよく見えた。東京から馬や馬丁も伴い、かれはこの馬に乗って裁判所に通い、そして週二三回、関西法律学校に出講したのである。

なつさんの話では、雨の日は人力車に乗り、その車夫もおかかえ田はその第一回、朝井は第三回の卒業生である。

エモヒトツ先生

住みこみ書生であった武田宣英の思い出の記（風樹の記）によると、井上はいつも口ぐせのように「自分は国費を以って法律を学んだのであるから、この浪速の地において法律学校を設立し、後進を誘掖し以て国恩に報いねばならぬ」と語ったという。それは本校の創立者たちに共通した信念であったと思うが、遡っていえば、かれらの恩師ボアソナードの影響であったと考えられる。

明治六年十一月に来朝したボアソナードが翌七年四月、明法寮で行なった最初の講義は、井上操の筆授翻訳により「性法講義」として出版されたことは前回述べたが、その中に次の一節が見える。

「今ヨリ日本語ヲ以テ後来ノ為メニ此ノ新法ノ教ヲ立テ、諸君ノ中ニ付テ其ノ教官ヲ作ラサルヘカラス。而シテ諸君ハ能ク立教ノ旨趣ヲ解シ必ス之ヲ拡張セラルヘシ」

教える方も教えられる方も、わが国法学の草分けとしての抱負をもって学習したのである。後年ボアソナードの弟子たちによって、東に明治、法政、西に本学が設立されたのも決して偶然ではなかった。

創立当初の講師たちが、すべて無報酬で出講したのも、ボアソナードの薫陶のしからしめたところである。中でも井上操の講義熱心は有名であった。紫色の風呂敷包を小脇にかかえた印象的な姿で教室に入ると、やがてその風呂敷色々として、その稿本を説き、まことに編述の「刑法講義」は明治十九年十一月十八日にはじまるもので、創立早々の講義である。「哲学刑法」（今の刑法総論ないしは法哲学に当たる）は翌年度、「行政法」は翌々二十一年の講義である。内容はいうまでもなく日本法に関するものだが、ここにことに仏国法に特色があった。

本学図書館には今も第一回卒業生、小岸安昌・内田重成の講義ノートが保管されている。かれら第一回生に対する井上操の講義としては「刑法講義」「哲学刑法」「日本行政法」の三種が残されており、先年、故春原源太郎博士の手によって複刻刊行されたことは、甚だ有益であった（明治初期の法学講義」昭和四十年刊）。

「刑法講義」は明治十九年十一月十八日にはじまるもので、創立早々の講義である。「哲学刑法」（今の刑法総論ないしは法哲学に当たる）は翌年度、「行政法」は翌々二十一年の講義である。内容はいうまでもなく日本法に関するものだが、ここにことに仏国法に特色があったという。ある時期者「訴答文例」（明治八年七月に制定された民事訴訟の手続法）の何たるかを知らなかった。井上は徴兵して「訴答文例」を知らないものは人間ではないといったと、これも同じく武田宣英の語るところである。

裁判官として

ボアソナードの感化をうけ、法は人間を束縛するものにあらず、擁護するものだ、という確信をいだく井上の法廷運用は、「目田・平等・解放の思想」に裏づけられたものであったにちがいない。大阪事件の判決の前夜、井上の宅に控訴院長児島惟謙から親展書が届いた。封を開いてみると、聞くところによると、近く政府の干渉が入りそうだから、判決をいそぐようにとの注意である。こうして判決は予定よりもくり上げられ、急遽、翌九月二十四日に行なわれたのだという（武田宣英談）。数年後に起こる司法権独立問題の伏線となる政府と司法部との対立は、すでにこのころから発生していたのである。

また「こんなことがあった。二銭銅貨を変造して、五十銭銀貨として用いた男が貨幣偽造罪で訴えられた。検事は堀田正忠、弁護人は渋川忠二郎、そして裁判長が井上という顔ぶれであった。検察官は「刑法講義」「哲学刑法」「日本行政法」の三種が残されており、先年、故春原源太郎博士の手によって複刻刊行されたことは、甚だ有益であった（明治初期の法学講義」昭和四十年刊）。

「刑法講義」は明治十九年十一月十八日にはじまるもので、創立早々の講義である。「哲学刑法」（今の刑法総論ないしは法哲学に当たる）は翌年度、「行政法」は翌々二十一年の講義である。内容はいうまでもなく日本法に関するものだが、ここにことに仏国法に特色があったという。ある時期者「訴答文例」（明治八年七月に制定された民事訴訟の手続法）の何たるかを知らなかった。井上は徴兵して「訴答文例」を知らないものは人間ではないといったと、これも同じく武田宣英の語るところである。

法律学者として

明治二十年、大阪事件の公判における異常の処断を蒙られて金百二十五円が下賜され、二十三年十月には、大阪控訴院部長（奏任官二等、中納俸）に補し、二十年と二十五年には公証人登用試験委員、翌三十六年には判検事登用第二回試験委員に任命された。他の創立者たちが任務の関係で、次々と本校を去っていったが、井上は比較的長く大阪に留まり、本校の発展を温く見守っていた。

創立当初の生徒たちは、判検事や代言人の書生が多く、そして講師はいずれも、判検事や代言人だったから、学校の空気はきわめて家族的であった。井上は講師中の長老格として、生徒たちからはもちろん若い講師たちからも、父のように信頼されていた。「七十年史」「アート版」掲載された第三回卒業写真（明治二十四年）をみると、井上は十すぐられの男の子を膝にのせている。たぶん長男の敏夫君（のち大阪控訴院判事・昭和二十四年、七十三才で死去）ではないかと思われる。軍服姿にピゲを生やした有田校長も男の子を膝にのせて写っている。卒業生の数は二十名内外。一時に数千人の卒業生を送り出す昨今の卒業式からみると、うたた隔世の感が深い。ちなみに有田校長は、例の網島の某富豪邸内に井上家と隣り合わせに住んでいたという。

明治二十六年のある霜の降った朝、天満橋の上で井上の乗った馬がころび、井上は大怪我をした。周囲の者たちが心配のあまり、かれは無理に出勤したばかりでなく、学校のこともすっておけないといって、講義に臨んだ。しかし、このことがあってから彼の健康はすぐれず、やがて中風の症状を呈してねこんでしまった。もともと酒好きの方で、今でいう高血圧症であったものか、落馬の衝撃で発病するに至ったものであろう。しばらく養生したが、再起不能ということがわかり、明治二十七年控訴院の方も辞任するの止むなきに至った。この年、特旨をもって従五位を授けられているが、これは長らくの司法官としての精励を賞されたものであろう。そして、この年の秋、かれは郷里松代に帰臥した。ちょうど日清戦争が始まった頃で、「すれちがうとの列車にも、出征の兵隊さんが満載されていました」と、岸田なつさん（当時、小学三年生）は語っている。もと松代町四つ屋にあった現在の生家は火災にあっていたので、代官町に家（桜井氏の旧宅）を買い求め、静かな自然を賞でながら療病につとめた。一時、東京に出て弁護士になろうとしたことも、病状はかばかしくなかったが、後遺症の言語障害がたたって、結局断念せざるをえなかった。家官が日清戦争であったので、かれは大阪に住んでいたころから、法華経の写経を日課にしていたが、信州に帰臥してからも、気分の良い日は経机に向って写経をしたり、昔の書生たちがときどき見舞いに来てくれるのをたのしみにしていた。武田宣英や朝井矢一が義理がたく、ときどき松代に顔を見せた。

明治二十四年六月二十一日、東京市会議長等が暴漢伊庭貞の兇刃に倒れた。このことを新聞で知った井上は、今後、代言人や公証人は上にあげるなどたしなめたという（武田談）。人情味がある一面、美しい自然と、温い親族、旧知に囲まれた井上操の晩年は、決して淋しいものではなかったと思う。司法官としての栄達は十分達せられなかったとしても、かれは決して不仕合せではなかった。帰郷後、明治二十八年二月二十三日、かれは五十九才の生涯を閉じた。法名は操忠院殿義盛日顕居士。墓は蓮乗寺の父母の墓に隣りして営まれている。（完）

人間とルール

秋山　由博　愛

去年のはげしかった学生運動のことを思うと、第一次答申も大学の成長にとって大きな発展でなければならないだろう。はっきりと学生の抵抗権などという言葉が大学の先生から持り出されたということ、うちの親父が聞いたらどういうだろうか。大学の先生は学生に向っているのかと、一喝の雷喝かざる得ない。プロ化したスポーツにはもはやフェアプレイは、佐久間象山を祀る象山神社が、渋川忠二郎、そして裁判長が井上という顔ぶれであった。検察官は「刑法講義」「哲学刑法」「日本行政法」の三種が残されており、先年、故春原源太郎博士の手によって複刻刊行されたことは、甚だ有益であった（明治初期の法学講義」昭和四十年刊）。

「刑法講義」は明治十九年十一月十八日にはじまるもので、創立早々の講義である。「哲学刑法」（今の刑法総論ないしは法哲学に当たる）は翌年度、「行政法」は翌々二十一年の講義である。内容はいうまでもなく日本法に関するものだが、ここにことに仏国法に特色があったという。ある時期者「訴答文例」（明治八年七月に制定された民事訴訟の手続法）の何たるかを知らなかった。井上は徴兵して「訴答文例」を知らないものは人間ではないといったと、これも同じく武田宣英の語るところである。

裁判官として

ボアソナードの感化をうけ、法は人間を束縛するものにあらず、擁護するものだ、という確信をいだく井上の法廷運用は、「目田・平等・解放の思想」に裏づけられたものであったにちがいない。大阪事件の判決の前夜、井上の宅に控訴院長児島惟謙から親展書が届いた。封を開いてみると、聞くところによると、近く政府の干渉が入りそうだから、判決をいそぐようにとの注意である。こうして判決は予定よりもくり上げられ、急遽、翌九月二十四日に行なわれたのだという（武田宣英談）。数年後に起こる司法権独立問題の伏線となる政府と司法部との対立は、すでにこのころから発生していたのである。

また「こんなことがあった。二銭銅貨を変造して、五十銭銀貨として用いた男が貨幣偽造罪で訴えられた。検事は堀田正忠、弁護人は渋川忠二郎、そして裁判長が井上という顔ぶれであった。検察官は「刑法講義」「哲学刑法」「日本行政法」の三種が残されており、先年、故春原源太郎博士の手によって複刻刊行されたことは、甚だ有益であった（明治初期の法学講義」昭和四十年刊）。

「刑法講義」は明治十九年十一月十八日にはじまるもので、創立早々の講義である。「哲学刑法」（今の刑法総論ないしは法哲学に当たる）は翌年度、「行政法」は翌々二十一年の講義である。内容はいうまでもなく日本法に関するものだが、ここにことに仏国法に特色があったという。ある時期者「訴答文例」（明治八年七月に制定された民事訴訟の手続法）の何たるかを知らなかった。井上は徴兵して「訴答文例」を知らないものは人間ではないといったと、これも同じく武田宣英の語るところである。

法律学者として

明治二十年、大阪事件の公判における異常の処断を蒙られて金百二十五円が下賜され、二十三年十月には、大阪控訴院部長（奏任官二等、中納俸）に補し、二十年と二十五年には公証人登用試験委員、翌三十六年には判検事登用第二回試験委員に任命された。他の創立者たちが任務の関係で、次々と本校を去っていったが、井上は比較的長く大阪に留まり、本校の発展を温く見守っていた。

創立当初の生徒たちは、判検事や代言人の書生が多く、そして講師はいずれも、判検事や代言人だったから、学校の空気はきわめて家族的であった。井上は講師中の長老格として、生徒たちからはもちろん若い講師たちからも、父のように信頼されていた。「七十年史」「アート版」掲載された第三回卒業写真（明治二十四年）をみると、井上は十すぐられの男の子を膝にのせている。たぶん長男の敏夫君（のち大阪控訴院判事・昭和二十四年、七十三才で死去）ではないかと思われる。軍服姿にピゲを生やした有田校長も男の子を膝にのせて写っている。卒業生の数は二十名内外。一時に数千人の卒業生を送り出す昨今の卒業式からみると、うたた隔世の感が深い。ちなみに有田校長は、例の網島の某富豪邸内に井上家と隣り合わせに住んでいたという。

明治二十六年のある霜の降った朝、天満橋の上で井上の乗った馬がころび、井上は大怪我をした。周囲の者たちが心配のあまり、かれは無理に出勤したばかりでなく、学校のこともすっておけないといって、講義に臨んだ。しかし、このことがあってから彼の健康はすぐれず、やがて中風の症状を呈してねこんでしまった。もともと酒好きの方で、今でいう高血圧症であったものか、落馬の衝撃で発病するに至ったものであろう。しばらく養生したが、再起不能ということがわかり、明治二十七年控訴院の方も辞任するの止むなきに至った。この年、特旨をもって従五位を授けられているが、これは長らくの司法官としての精励を賞されたものであろう。そして、この年の秋、かれは郷里松代に帰臥した。ちょうど日清戦争が始まった頃で、「すれちがうとの列車にも、出征の兵隊さんが満載されていました」と、岸田なつさん（当時、小学三年生）は語っている。もと松代町四つ屋にあった現在の生家は火災にあっていたので、代官町に家（桜井氏の旧宅）を買い求め、静かな自然を賞でながら療病につとめた。一時、東京に出て弁護士になろうとしたことも、病状はかばかしくなかったが、後遺症の言語障害がたたって、結局断念せざるをえなかった。家官が日清戦争であったので、かれは大阪に住んでいたころから、法華経の写経を日課にしていたが、信州に帰臥してからも、気分の良い日は経机に向って写経をしたり、昔の書生たちがときどき見舞いに来てくれるのをたのしみにしていた。武田宣英や朝井矢一が義理がたく、ときどき松代に顔を見せた。

明治二十四年六月二十一日、東京市会議長等が暴漢伊庭貞の兇刃に倒れた。このことを新聞で知った井上は、今後、代言人や公証人は上にあげるなどたしなめたという（武田談）。人情味がある一面、美しい自然と、温い親族、旧知に囲まれた井上操の晩年は、決して淋しいものではなかったと思う。司法官としての栄達は十分達せられなかったとしても、かれは決して不仕合せではなかった。帰郷後、明治二十八年二月二十三日、かれは五十九才の生涯を閉じた。法名は操忠院殿義盛日顕居士。墓は蓮乗寺の父母の墓に隣りして営まれている。（完）

書評

ビルマの哀歓

戦跡慰霊巡記

慰霊の辞が読まれたあとこおい、これが内地からの土産だ」と焼香するもの、酒をかけるもの、煙草に火をつけてさぶくらい吹きかけてから碑に供るもの、数限りない供養のしぐさは、まこと、戦友を思う心でいっぱいであった。中でも「京都鴨川の水です。団長、これをこの碑にかけて下さい」と差し出されたときは、息の根が止まりそうだった。もったいないことだ。また慰場所でも、かければならぬと思えば、一滴の水が導とかった。皆泣いていた。

マンダレー忠魂碑で渡邊第一回の慰霊法要をいとなんだときの模様を、飯森徳秀氏は右のように記している。

とかく、他家の客となって、見せられる碑側などは、その家の人たちのほかには余り関心も興味もわかぬものが多いが、飯森氏の「ビルマの哀歓」＝東京・ライフ社。定価九百円＝は、ビルマに関心のなかった人たちにとっても、数多いビルマ各地の戦跡を、佐久間象山を祀る象山神社が、渋川忠二郎、そして裁判長が井上という顔ぶれであった。検察官は「刑法講義」「哲学刑法」「日本行政法」の三種が残されており、先年、故春原源太郎博士の手によって複刻刊行されたことは、甚だ有益であった（明治初期の法学講義」昭和四十年刊）。

「刑法講義」は明治十九年十一月十八日にはじまるもので、創立早々の講義である。「哲学刑法」（今の刑法総論ないしは法哲学に当たる）は翌年度、「行政法」は翌々二十一年の講義である。内容はいうまでもなく日本法に関するものだが、ここにことに仏国法に特色があったという。ある時期者「訴答文例」（明治八年七月に制定された民事訴訟の手続法）の何たるかを知らなかった。井上は徴兵して「訴答文例」を知らないものは人間ではないといったと、これも同じく武田宣英の語るところである。

裁判官として

ボアソナードの感化をうけ、法は人間を束縛するものにあらず、擁護するものだ、という確信をいだく井上の法廷運用は、「目田・平等・解放の思想」に裏づけられたものであったにちがいない。大阪事件の判決の前夜、井上の宅に控訴院長児島惟謙から親展書が届いた。封を開いてみると、聞くところによると、近く政府の干渉が入りそうだから、判決をいそぐようにとの注意である。こうして判決は予定よりもくり上げられ、急遽、翌九月二十四日に行なわれたのだという（武田宣英談）。数年後に起こる司法権独立問題の伏線となる政府と司法部との対立は、すでにこのころから発生していたのである。

また「こんなことがあった。二銭銅貨を変造して、五十銭銀貨として用いた男が貨幣偽造罪で訴えられた。検事は堀田正忠、弁護人は渋川忠二郎、そして裁判長が井上という顔ぶれであった。検察官は「刑法講義」「哲学刑法」「日本行政法」の三種が残されており、先年、故春原源太郎博士の手によって複刻刊行されたことは、甚だ有益であった（明治初期の法学講義」昭和四十年刊）。

「刑法講義」は明治十九年十一月十八日にはじまるもので、創立早々の講義である。「哲学刑法」（今の刑法総論ないしは法哲学に当たる）は翌年度、「行政法」は翌々二十一年の講義である。内容はいうまでもなく日本法に関するものだが、ここにことに仏国法に特色があったという。ある時期者「訴答文例」（明治八年七月に制定された民事訴訟の手続法）の何たるかを知らなかった。井上は徴兵して「訴答文例」を知らないものは人間ではないといったと、これも同じく武田宣英の語るところである。

法律学者として

明治二十年、大阪事件の公判における異常の処断を蒙られて金百二十五円が下賜され、二十三年十月には、大阪控訴院部長（奏任官二等、中納俸）に補し、二十年と二十五年には公証人登用試験委員、翌三十六年には判検事登用第二回試験委員に任命された。他の創立者たちが任務の関係で、次々と本校を去っていったが、井上は比較的長く大阪に留まり、本校の発展を温く見守っていた。

創立当初の生徒たちは、判検事や代言人の書生が多く、そして講師はいずれも、判検事や代言人だったから、学校の空気はきわめて家族的であった。井上は講師中の長老格として、生徒たちからはもちろん若い講師たちからも、父のように信頼されていた。「七十年史」「アート版」掲載された第三回卒業写真（明治二十四年）をみると、井上は十すぐられの男の子を膝にのせている。たぶん長男の敏夫君（のち大阪控訴院判事・昭和二十四年、七十三才で死去）ではないかと思われる。軍服姿にピゲを生やした有田校長も男の子を膝にのせて写っている。卒業生の数は二十名内外。一時に数千人の卒業生を送り出す昨今の卒業式からみると、うたた隔世の感が深い。ちなみに有田校長は、例の網島の某富豪邸内に井上家と隣り合わせに住んでいたという。

明治二十六年のある霜の降った朝、天満橋の上で井上の乗った馬がころび、井上は大怪我をした。周囲の者たちが心配のあまり、かれは無理に出勤したばかりでなく、学校のこともすっておけないといって、講義に臨んだ。しかし、このことがあってから彼の健康はすぐれず、やがて中風の症状を呈してねこんでしまった。もともと酒好きの方で、今でいう高血圧症であったものか、落馬の衝撃で発病するに至ったものであろう。しばらく養生したが、再起不能ということがわかり、明治二十七年控訴院の方も辞任するの止むなきに至った。この年、特旨をもって従五位を授けられているが、これは長らくの司法官としての精励を賞されたものであろう。そして、この年の秋、かれは郷里松代に帰臥した。ちょうど日清戦争が始まった頃で、「すれちがうとの列車にも、出征の兵隊さんが満載されていました」と、岸田なつさん（当時、小学三年生）は語っている。もと松代町四つ屋にあった現在の生家は火災にあっていたので、代官町に家（桜井氏の旧宅）を買い求め、静かな自然を賞でながら療病につとめた。一時、東京に出て弁護士になろうとしたことも、病状はかばかしくなかったが、後遺症の言語障害がたたって、結局断念せざるをえなかった。家官が日清戦争であったので、かれは大阪に住んでいたころから、法華経の写経を日課にしていたが、信州に帰臥してからも、気分の良い日は経机に向って写経をしたり、昔の書生たちがときどき見舞いに来てくれるのをたのしみにしていた。武田宣英や朝井矢一が義理がたく、ときどき松代に顔を見せた。

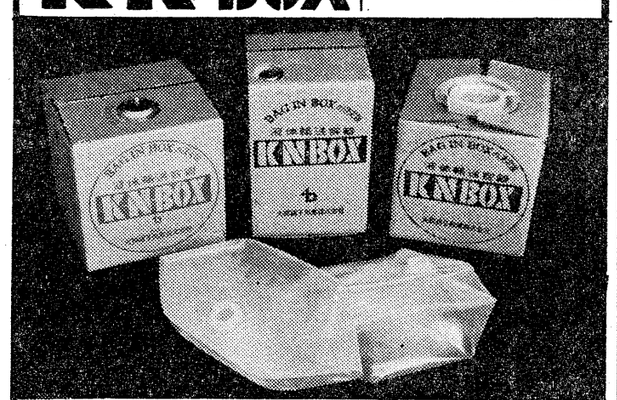
明治二十四年六月二十一日、東京市会議長等が暴漢伊庭貞の兇刃に倒れた。このことを新聞で知った井上は、今後、代言人や公証人は上にあげるなどたしなめたという（武田談）。人情味がある一面、美しい自然と、温い親族、旧知に囲まれた井上操の晩年は、決して淋しいものではなかったと思う。司法官としての栄達は十分達せられなかったとしても、かれは決して不仕合せではなかった。帰郷後、明治二十八年二月二十三日、かれは五十九才の生涯を閉じた。法名は操忠院殿義盛日顕居士。墓は蓮乗寺の父母の墓に隣りして営まれている。（完）

たのしさ ひろがる お買物
阪急
大阪梅田本店
千里阪急・神戸支店
東京大井店
敷寄屋橋阪急

電機の総合商社！
重電機器・家電機器
照明機器・電子機器
冷暖房機器・昇降機器
産業機械・電気工事
創業大正10年
年商200億円
三菱電機(株)代理店
株式会社 立花商會
本社　大阪市西区阿波堀通2－47
電話　(541) 9521 大代表
支店　東京・名古屋・堺
営業所　東・北・中央・神戸・町田・鹿島

東洋土建株式会社
代表取締役会長　阿部八郎
代表取締役社長　阿部暢
本社　大阪市東住吉区田辺東ノ町六丁目三三
電話　大阪(691)692　一三三(代)　九八三五・九九(三五五)
営業所　横浜市港北区伸手原一丁目一〇の七
電話　横浜(421)三四七〇・〇四一〇

CFC　Construction Fastening Consultant.
〈営業品目〉
ホークアンカー・スプリンガー
ブラックアンドデッカー電動ハンマー・建設用鋲打工具ラムセット及び付属品・その他建設用電設用機械工具の販売・施工
建設ファスナー株式会社
代表取締役　矢島正人
本社
大阪市北区老松町1－5
電話　代表(06)－363－4126
支店・営業所
東京(03)433－5611　名古屋(052)262－5411代　岡山(0862)72－4612
札幌(0122)52－2592　京都(075)312－4947　北九州(093)58－4857代
横浜(045)641－2371代　大阪(06)363－4126代
静岡(0542)82－0151代　神戸(078)67－3331代

K·N·BOX　インバッグボックス 18ℓ·20ℓ

各種プラスチック製品メーカー
大同硝子興業株式会社
本社　大阪市北区絹笠町50(堂ビル)TEL(363)2261(代)
営業所　東京都江東区深川永代2－11　TEL(641)9357

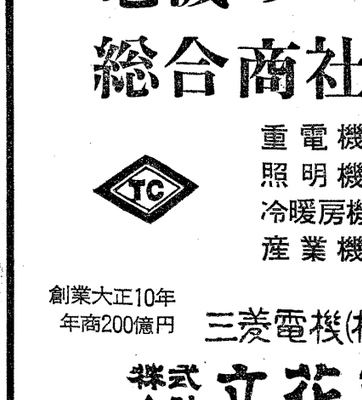
ニッカバー
ポッカ
北新地店　北区永楽町18番地　(代)344・6091
北店　北区曽根崎中1丁目2番地　(312)4787
心斎橋店　南区心斎橋筋2丁目32番地　(211)4787

異動

▽伊東順一（昭四、二商・昭八学一法）【ヤンマーディーゼル㈱総務部長兼任セイレン興産㈱常務取締役】大阪市北区茶屋町六二ヤンマービル▽宇田良治（昭一六専二法）【大阪府陸運事務所々長】▽神谷楠男（昭四四学一法）名古屋市昭和区御所町一一二名古屋市役所御所寮【名古屋市役所】▽片山明保（昭四一学一法）兵庫県三原郡緑町倭文住田九四〇【兵庫県立洲本高等学校南淡分校々長】▽竹村忠顕（昭三七学一経）奈良県北葛城郡王子町王子一一三一三【日刊工業新聞社大阪支社】▽高路春生（昭三七学二法）西宮市神楽町二一〇【梶田インテリア㈱大阪店】大阪市東区南本町加西▽都志辰雄（昭一四専二法）加西町福居町一〇五【司法書士】▽田原孝平（昭二七学一法）【伊丹市交通部】伊丹市広畑三一一▽寺地浮一（昭三四学二法）和歌山市島五一一二県営住宅一一号【和元治民が現住している。すぐ一町程はなれた馬場町には、三女岸田なつさんの女、斎藤治子さんが庭一杯に花を咲かせた広い家に住んでいられる。斎藤氏は松代藩の郡奉行の家で、井上操の妻、きよの実家だという。そして、戦時中に大本営のおかれた大地下壕のある西条の部落には、操の三女、岸田なつさんの閑静な住いがある。長野市には三男三郎氏（八十才）が現住していられるということであったが、時間の都合でお訪ねできなかった。

美しい自然と、温い親族、旧知に囲まれた井上操の晩年は、決して淋しいものではなかったと思う。司法官としての栄達は十分達せられなかったとしても、かれは決して不仕合せではなかった。帰郷後、明治二十八年二月二十三日、かれは五十九才の生涯を閉じた。法名は操忠院殿義盛日顕居士。墓は蓮乗寺の父母の墓に隣りして営まれている。（完）

井上操と長男修治君（明治22年撮影）

改姓名

▽北井晧友（昭四五学工金）【北井浩】八尾市相生町二一一▽小西節子（昭四二学一仏）【中西節子】吹田市青山台二一七A一三〇七▽小林照（昭四三学二経）【朝倉照】明石市藤江別所後二〇四〇一四〇七▽山田直美（昭四四学一英）【藤見直美】神戸市灘区記田町五一三一一〇▽山村正文（昭三九、二商）【国文産業】寝屋川市木田二八九▽山村正文（昭三九、二商）【北井浩】八尾市相生町二一一▽小西節子（昭四二学一仏）【中西節子】吹田市青山台二一七A一三〇七▽小林照（昭四三学二経）【朝倉照】明石市藤江別所後二〇四〇一四〇七▽山田直美（昭四四学一英）【藤見直美】神戸市灘区記田町五一三一一〇